

特

集

目
取

人気4ソフトの
インストールから使い方まで
これを読めば自由自在

強

B | O | g

ツ | ル | を

他人が管理するサービスではない、全部自分の好きにできるブログサイトを実現しよう！ 人気のMovable Typeの最新版をはじめ、人気のツールを一挙に4つ紹介する。

各ツールの特徴、**どんな人**に向いているか、必要な環境に始まり、入手 日本語化 インストール 初期設定を済ませて使い始めるまでを完全解説。さらに各ツールのとっておきの活用テクニックも紹介するぞ！

セ | ッ | ト | ア | ッ | プ

本邦
初公開 Movable Type 3.0



Movable Type 3.0

一番人気のツールが1年ぶりにメジャーバージョンアップ

最新版 Nucleus 2.5



Nucleus 2.5

最新版を使えば、初心者でも簡単にインストール。

Blosxom 2.0



Blosxom 2.0

ひと味違った玄人向け。
柔軟性が高く発想次第で可能性が広がる。

tDiary 1.5 + BlogKit



tDiary 1.5 + BlogKit

ただの日記ツールではない。
ブログ的機能にも対応した最新版。

text

田口 和裕

(たくち かずひろ) p86 ~ p87

音楽と野球とブログをこよなく愛するフリーのライター。共著書『ウェブログ入門』(翔泳社刊)や自身のブログサイトrickdom <http://www.rickdom.com/>などでブログ関連の活動を活発に行っている。

平田 大治

(ひらた だいじ) p88 ~ p93

ブログ <http://www.rickdom.com/> はもとより、日本語化パックの作成、書籍『Movable Typeで今すぐできるウェブログ入門』(インプレス刊)執筆など、初期からMovable Typeの日本での普及に努めてきた技術者。シックス・アパート株式会社の執行役員(技術担当)に就任した。

dh's memoranda <http://uva.jp/dh/mt/>

樋口 理

(ひぐち おさむ) p94 ~ p99

技術者向けウェブサイト「@IT」<http://www.atmarkit.co.jp/>を運営する株式会社アットマーク・アイティの取締役事業開発担当。2002年8月からhiguchi.comにおいてNucleusを用いたブログサイト<http://www.higuchi.com>を運営してNucleus関連の情報を公開している。

<http://www.atmarkit.co.jp/>

<http://www.higuchi.com>

長嶋 享

(ながしま きょう) p100 ~ p105

hail2u.net <http://hail2u.net/> で、Blosxomによるブログのほか、RSSを中心としたインターネット関連の技術情報を提供している。特にRSS関連は充実していて、RSS生成ツール、RSSメモツール、OPMLエディターなど、さまざまなツールを公開している。

hail2u.net <http://hail2u.net/>

ただただし

p106 ~ p111

tDiaryの原作者。現在tDiaryはオープンソースプロジェクトとして開発が進められているが、コア部分のリードを担当。tDiary.Net <http://www.tdiary.net/> 上の「ただのにつき」<http://sho.tdiary.net/> で、tDiaryに関連したりしなかったりする情報を発信している。

<http://www.tdiary.net/>

<http://sho.tdiary.net/>

illustr

関根まさみち



他人任せの「書くだけ」よりも トコトンこだわって全部自分流 インストール型ブログツールで作る 「自分だけの」 本格ブログサイト

▶ 人気のASPブログサービス 初心者にはオススメだが……

ブログをするためのツールは次々登場しているが、どれを使えばいいのかわからずに迷ってしまう人も多いのではないだろうか。「ブログツール」と呼ばれているものは、大きく2種類に分けられる(1)。

・ASP型(サービス提供型)

サービス会社が管理・運営するサーバーとブログサービスを使ってブログを運営する形。「ココログ」や「Livedoor Blog」など最近人気のブログサービスはこれだ。

・サーバーインストール型

配布されているブログツールを自分の借りているレンタルサーバーなどにアップロードして、ブログの内容もプログラムも自分で管理・運営する形。

“とりあえずブログができればいい”という人ならば、「ASP型」ブログサービスを使えば、ユーザー登録をするだけでブログを始められて面倒なことがない。しかし、慣れてくると、特に無料のASP型では物足

インストール型ブログツール vs ASP型ブログサービス

自分でツールをインストールする場合

サーバー環境
レンタルサーバー、プロバイダーのホームページスペース、自分で立てたサーバーなどを使う。余裕のあるディスク容量を使える場合が多い。

独自ドメイン名
レンタルサーバーが対応していれば自由に使える。

ブログツールの管理
自分でインストールして管理しなければいけないが、バージョンアップや機能追加は好きなときに自分で自由に行える。

ブログのカスタマイズ
自分で自由にカスタマイズやデザインができる。ツール自体の改造も、やり方がわかれば自分でできる。プラグインやスタイルシートは自分で探してくるが、自分で作る。

良い点
何でも自分のやりかたにできる。いろいろツールや最新版のツールを試して自分に合ったものを選べる。ブログとほかのCGIを組み合わせると高度なことができる。

悪い点
手間がかかる。技術的な知識が必要になる場合がある。

ASP型サービスを利用する場合

サーバー環境
ASPサービスを契約すれば、ほかの契約は必要ない。無料サービスの場合は、画像などをたくさん使ったディスク容量が不足する場合がある。

独自ドメイン名
対応していないサービスが多い。独自サブドメインならば対応している場合もある。

ブログツールの管理
サービス提供者がインストールや管理をしてくれるが、バージョンアップや機能追加はサービス全体で一斉に行われるもののみ。

ブログのカスタマイズ
サービスで提供される範囲内でのカスタマイズならば自由に行えるが、制限がある場合もある。新機能や新デザインをサービス提供者が追加してくれる場合もある。

良い点
ブログを書く以外のことはなくていい。技術的な知識が必要ない。同じサービスを使っている仲間が多い。

悪い点
サービスの範囲内でしか自由度がない。ブログ以外のCGIは使えない場合が多い。



りなさを感じることもある。機能のアップデートが運営者任せだったり、デザインやレイアウトも決められたテンプレートの中からしか選べなかったりすることが多いからだ(有料サービスではこういった問題はない場合も多い)。また、規約によってブログの内容の権利がサービス会社に帰属するとされてしまう可能性があることに抵抗を持つ人もいだろう。

▶ インストール型ブログツールで 自分だけのブログを作ろう

一歩進んだ「自由に何でもできる」ブログが欲しい人にオススメなのが、「インストール型」ツールを自分でサーバーにインストールして、自分専用のブログ環境を構築する方法だ。

デザインやレイアウトを気の済むまでカ

「自分流」ブログを実現できる最新ブログツール

ツール名・URL	言語	DB	ライセンス	解説	解説は
Movable Type 3.0 http://www.movabletype.org/	Perl	DB不要だがMySQLなども利用可	独自	おそらく日本で最も利用者の多い、インストール型ブログツールのスタンダード。独自タグとCSSで柔軟にカスタマイズできる。個人利用は無料だが、商用利用は有料だ。	解説は 88ページから
Nucleus 2.5 http://japan.nucleuscms.org/	PHP	MySQL必須	GPL	米国製だが日本語化の動きも活発だ。複数ユーザーでのブログ運営、予約された時間に記事を公開する機能、プラグインによる機能の追加などが特徴。無償で利用できる。	解説は 94ページから
Blosxom 2.0 http://www.blosxom.com/	Perl	DB不要	フリー	シンプルなブログツールだが、豊富なプラグインで数多くの機能を追加できる。基本的には書いたテキストファイルをFTPでアップロードするスタイル。無償で利用できる。	解説は 100ページから
tDiary 1.5+BlogKit http://www.tdiary.org/	Ruby	DB不要	GPL	日記作成CGIがブログの機能に対応した純正日本製ツール。リファラーから「今日のリンク元」を表示したりするなど日記ツール独特の機能がある。無償で利用できる。	解説は 106ページから

詳細なバージョンなどの情報は各ツールの解説ページを参照

1 これ以外にも、PC上にインストールして動かすアプリケーションでブログを書き、生成されたhtmlファイルをサーバーにアップロードする「クライアント型」としてRadio User LandやiBlogなどのツールがあるが、日本ではあまり使われていない。

スタマイズできるのももちろん、モジュールやプラグインの形で豊富に用意されている追加機能を試すのも自由だ。一部の無料ASPサービスでは禁止されているアフィリエイトや広告などで小遣いを稼ぐのも、レンタルサーバーで禁止されていない限り自由にできる。容量に余裕のあるレンタルサーバーを使っているならば、好きなだけ画像をアップロードできる。

また、PerlやRubyなどのプログラミング言語の腕に覚えのある人ならば、モジュールを自作したりして、そのツール自体の開発に参加することも可能だ。

もちろん欠点もある。レンタルサーバーを借りれば費用がかかってしまうし、どのツールも比較的设置は容易だが、ある程度の知識は求められる。定期的にバックアップを取るなどの作業も必要だ。

インストール型ブログツールにもいくつかあるが、一番人気は、日本でも圧倒的なシェアを誇っているMovable Type(ムーバブルタイプ、MT)だ。しかし、「みんなMTだから違うのがいい」という人もいるだろう。この記事では、MTを含めた4つのツールを紹介する。いずれも日本語を使えて、実績のあるツールだ。利用者が多いため、ウェブ上にも多くのノウハウが蓄積されている。それらのリソースとこの特集があれば、導入から運用までバッチリだ。

▶自分のサーバーで使えるのかな？サーバーの環境に注意しよう

多くの場合はレンタルサーバーを使うことになるだろう。各ツールはそれぞれ動作

環境が違うので、左ページの表を参考に、必要な環境がレンタルサーバーに揃っているか、事前に確認しておく必要がある。

まず、独自CGIやPHPの使用が許可されていることは大前提だ。また、インストールされている言語にも注意が必要だ。MTとBlosxomに必要なPerlはほとんどのサーバーで使えるが、Nucleusが使うPHPや、tDiaryが使うRubyは利用できない場合もある。

また、Nucleusはデータベース管理ソフトのMySQLがなければ使えない。

レンタルサーバーの情報を確認すれば情報があるはずだが、わからなければメールで確認しよう。その際には、具体的に「PHP 4.0.6以上とMySQL 3.23.38以上はインストールされていますか？」のように聞くと適切に答えてもらえるだろう。

実際のユーザーが語る「私がこのツールを選んだ理由」

豊富な技術情報が選んだ決め手

Movable Typeを使っている
CNET Japan

<http://japan.cnet.com/>

CNET Japan BlogにMTを使った大きな理由は、技術情報に一番アクセスしやすかったからです。トラックバック以外はそれほど複雑な機能を必要としていたわけではないので、商用ライセンスも安価なこのツールを他との比較もせずに選択しました(山岸広太郎氏)。



PHPとFlashの動的連携が魅力

Nucleusを使っている
サイケデリックビビアン

<http://vivian.strippler.jp/>

最初はMTを検討していたのですが、再構築時にサーバー負荷が高いという話を聞き、負荷の少ないPHPで動作するツールをいくつか比較して、一番自由度の高そうなNucleusに決めました。プラグインの充実度や、PHPとFlashとの動的連携が可能などところが気に入っています(タカ氏)。



GPLライセンスと拡張性

Blosxomを使っている
チャンネル北国tv

<http://ch.kitaguni.tv/>

最初はMTを使っていたのですが、各ユーザーさんが自分のブログを持つ使い方がライセンス上問題になり、大至急ほかのツールを比較検討したんです。その結果、MTと同じPerlで書かれていて拡張性も高く、何よりもフリーのライセンスなので自由に使えるということで最適だと判断しました(佐藤氏)。



Emacsで書いてアップロード

tDiaryを使っている
Ruby オフィシャルサイト

<http://www.ruby-lang.org/>

私が作ったRubyで書かれているのはやはり魅力です(笑)。いろいろな機能のプラグインがたくさん公開されていて、Rubyで自分で開発もできますから。後は、いつも使っているEmacs(2)で記事を書いてアップロードできるプログラムがあるのも手放せない理由の1つです(まつもとゆきひろ氏)。



2 Emacsは、Unix系OSでは標準的な、高機能テキストエディター



大人気ツールの安心感

関連情報の豊富さは全ツール一番

最新版の Movable Type 3.0 は

インターフェイス刷新で日本語対応

機能とデザインと使いやすさを併せ持つ

text: 平田 大治 URL <http://uva.jp/dh/mt/>

▶ MTは初心者にも使える 高機能なブログツール

Movable Type(以下MT)は、日本でも米国でも人気の、サーバーインストール型のブログツールだ。2001年10月に、既存のツールに満足できなかったトロット夫妻が作ったもので、プログラマーのベンとデザイナーのミーナの2人のコンビネーションにより、高機能で便利かつクールなデザインが実現されている。最近では一般的になった「トラックバック」を考案したのもこの2人だ。インストールこそ多少難しいが、いったんセットアップが終われば、ブログだけでなく、ちょっとしたウェブページでも簡単にメンテナンスできる。

今では、サーバーインストール型のブログツールと言えばまずMTの名前が挙げられるほどで、一番人気のツールと言っても過言ではないだろう。米国の大統領候補たちが資金集めのために立ちあげたブログのほとんどに使われているほどだ。

・ジョン・ケリー

URL <http://blog.johnkerry.com/>

・ハワード・ディーン

URL <http://www.blogforamerica.com/>

MTは、単にブログサイトを運営するだけでなく、CMS(コンテンツ管理システム)としてもそれなりの機能を搭載している。記事はエントリーごとにデータベースで管理されて、Permalink(パーマリンク)と呼ばれる個別のURLを与えられる。記事は、日付順に管理するだけでなく、カテゴリーごとに分類することもできる。

各記事は、MTのテンプレートエンジンによって、HTMLファイルに変換されてサーバーに保存される。サイトデザインはテンプレートを変更することで大幅に変更できるので、スタイルシートと組み合わせれば自分らしいサイトを作ることも可能だ。

プラグインで機能を拡張する仕組みや、XML-RPC(1)によるウェブサービスにも対応していて、携帯電話からブログを更新するモブログなども利用できる。

これだけの機能を提供していながら、ユ

ーザーインターフェイスは直観的に作られていて、初心者でも戸惑うことは少ない。最新版のMT 3.0のリリースが近いが、原稿執筆時点ではまだ仕様が確定していないので、この記事での解説は基本的に現時点の最新バージョン2.661を扱う。



図1 MTは単なるブログツールとしてだけでなく、コンテンツ管理システムとしても活用できる。株式会社カレンは、ウェブサイト全体をMTでリニューアルした。

URL <http://www.current.co.jp/>

! 個人は無料だが 商用の場合は注意

MTのライセンスは独自のもので、いわゆるフリーソフトウェアではない。個人ユーザーで非商用ならば無料で利用できる(作者に寄付をすればMTのサイトに登録できる)。商用については、150ドルの限定商用ライセンスを購入すれば、企業紹介のページなど一定の範囲で利用できる。ライセンスをよく確認してほしい。

また、プログラムやドキュメントの二次配布や改造版の配布は禁止されている。

URL <http://www.movabletype.org/legal.shtml>



Movable Type を動かすにはコレが必要

MTを使うには、サーバーに次のような環境が必要だ。最近では「Movable Type インストール可」のように謳っているレンタルサーバーもあるので、そういうところを選ぶとトラブルが少ないだろう。

- ・Perl 5.004_04以降がCGIとして動く
- ・Berkeley DBまたは、PostgreSQL、MySQL、SQLiteのどれかが利用できる
- ・DBFileもしくはDBIと、上記データベース用のDBDモジュールが利用できる

1 ウェブを見るととき同様の仕組みで、XMLを使って別のサーバーのプログラムを呼び出す仕組み。



もうすぐ登場の Movable Type 3.0 注目の新機能と新インターフェイスはこうなる



▶ 3.0へのバージョンアップで最新のブログ状況に対応

間近にリリースが迫っている、久しぶりのメジャーアップデートとなる MT 3.0 の新機能が明らかになったので紹介しよう。

MT 3.0 のライセンスでは、これまでと同様に、非商用の個人ユーザーは無料となる予定だ。また、予告されていた「Movable Type Pro」は、改めてユーザーのニーズを調査しての開発が行われている。

▶ TypePad で評判の軽快なインターフェイス

MT の親戚にあたるブログサービスの TypePad やココログを利用したユーザーは、MT に比べて管理画面のレスポンスが速いことに驚いたのではないだろうか。この軽快さの秘密に、インターフェイス自体をシンプルな XHTML と CSS を使ってデザインされていることがある。MT 3.0 では管理画面のインターフェイスを一新して、軽快なレスポンスを実現できる CSS をベースにしたインターフェイスが実現される。

▶ コメントスパムへの対応をさらに強化

日本ではまだ少数だが海外では問題となっているコメントスパム(2)への対策がすでいくつか行われているが、MT 3.0 では抜本的な対策として、コメントするユーザーの登録機能を提供する。これによって、登録していないユーザーのコメントは受け付けられないようになる予定だ。

また、TypePad と同様に、コメントの管理機能を強化して、すべてのコメントの一覧表示や複数コメントの一括削除などが行えるようになる。トラックバックについても同様の機能が提供される予定だ。

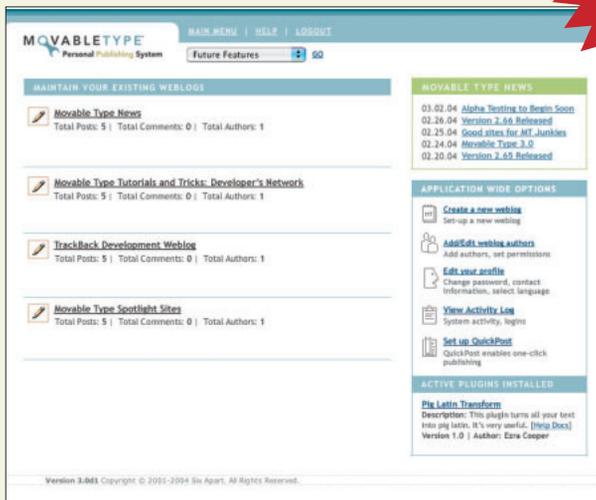


図2 まだ英語版で申し訳ないが、これが MT 3.0 の管理画面だ！ MTらしいクールさのまま画面デザインは一新されて、軽快な操作になった。管理画面もカスタマイズしやすくなっている。プラグインの管理機能が追加されているのも注目だ。

▶ 新しいユーザー登録システム「TypeKey」との連動

さらにコメントスパムへの対策として、コメントを書いた人を特定する機能が提供される。「TypeKey」は、登録したコメントの認証機能を提供するサービスで、登録されたユーザーからのコメントがそれと判断できるように MT 3.0 と連動する仕組みだ。TypeKey アカウントごとにコメントを受け付けたり拒否したりできる、コメントスパムへの抜本的な対策になる予定だ。

▶ 新しいプログラミングインターフェイスの追加

これまで MT で提供されていたプログラミングインターフェイス(3)には、Perl API、Blogger API などの XML-RPC、プラグインの 3 つがあったが、新たに Atom API が追加される。Atom に関しては、すでに Atom Feed が先行して提供されていたが Atom API によって、よりパワフルなクライアントソフトなどが開発されることに

なるだろう。実際に、米国では携帯電話に Atom API を搭載したり、Mac OS X の iPhoto と連携するアプリケーションがアナウンスされたりという動きが出てきている。

また、これまでではプラグインで開発できるのは新規のタグだけだったが、3.0 では、UI の変更を含めた機能追加を可能にするインターフェイスが提供される予定だ。「フック」を使って既存の機能を拡張しやすくする方向も提示されており、CMS として利用するユーザーにとっては、よりカスタマイズしやすいものになるだろう。

▶ 日本語バージョンの標準提供

MT 3.0 からは、日本語化済みの MT が公式サイトからダウンロードできるようになる。これまで、公式には日本語対応版は提供されていなかったため、各ユーザーで日本語化が必要だった。これでインストールは簡単になり、バージョンアップのときの対応も簡単になるだろう。

Movable Type 3.0 は 4 月にはリリースされる予定だ。

2 関係のないブログに関係のないコメントをプログラムを使って数百個付けること。単なる「荒らし」ではなく、検索エンジンでのランキングの高いブログサイトから自サイトへのリンクを作ることで、自サイトの検索エンジンでの表示順位を上げることをねらったものが多い。

3 MT 以外のプログラムから MT を操作する手段。



落ち着いてやれば難しくない Movable Typeのインストール

▶ まずはダウンロードして 初期設定と日本語化だ

① まず、MTを公式サイトからダウンロードしよう。

<http://www.movabletype.org/download.shtml>

「Full Version with Libraries」と「ZIP」(Mac OS Xなら「Gzipped TAR」)を選んで名前とメールアドレスを入力したら、ライセンスをよく読んで「I accept the terms of this license agreement」にチェックを入れて「DOWNLOAD」を押す。

② ダウンロードしたファイルを解凍して、中にあるmt.cfgというファイルを秀丸などのテキストエディターで開く(4)。この解説では、サーバー上にCGI用の「cgi-bin」とウェブサイト用の「htdocs」がある状況を想定している(図3)。「htdocs」はウェブ用の公開ディレクトリーで、「public_html」の場合や特に設定されていない場合もある。「サーバー名」には「www.impress.co.jp」などが入る。

③ まず、14行目の「CGIPath」で始まる行に書かれている「WWW.YOUR-SITE.COM/PATH/TO/MT/」を削除して、図3のMTをインストールするURLを、次のように設定する。設定する値(URL)と「CGIPath」の間には必ず半角のスペースを入れること。

```
CGIPath http://www.impress.co.jp/cgi-bin/
```

④ 35行目の「# StaticWebPath」の行頭にある「#」を削除する。「#」を削除すると設定が有効になる。そして、図3のmt-staticに相当するURLを設定する。

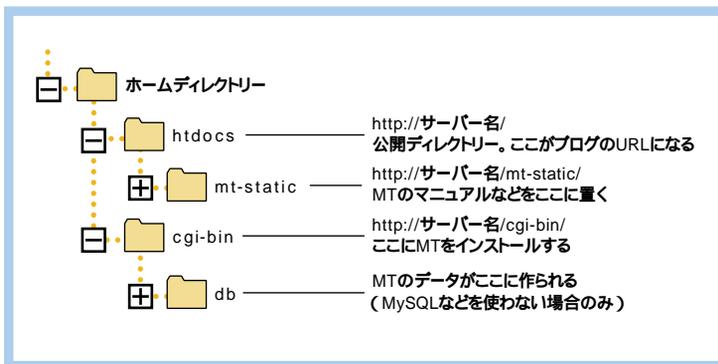


図3 サーバー上の構造

```
StaticWebPath http://www.impress.co.jp/mt-static
```

⑤ 次に、日本語化の作業だ。198行目の「# NoHTMLEntities 1」の「#」を削除する。

```
NoHTMLEntities 1
```

⑥ 306行目にある「# PublishCharSet Shift_JIS」の「#」も削除する。そして、「Shift_JIS」の部分自分のサイトで使う漢字コードに変更する。ウェブサービスなどの利用も考えると、おすすめはUTF-8だ。

```
PublishCharset UTF-8
```

Unixで基本となるEUCにする場合は、次のようにする。

```
PublishCharset EUC-JP
```

⑦ 設定がすべて終了したら、mt.cfgを保存して閉じる。まだアップロードはしない。

⑧ 筆者のサイトの「日本語ランゲージパ

ク」から、mt-ja.zipまたはmt-ja.tar.gzのどちらかをダウンロードして解凍する。

<http://weblog.uva.ne.jp/download.shtml>

⑨ 漢字コードをUTF-8にしたときは「ja.pm.utf-8」を、EUC-JPならば「ja.pm.euc-jp」を、ファイル名を「ja.pm」に変更してから、MTのファイルのextlib MT_L10Nディレクトリーにコピーする。

⑩ 日本語ランゲージパックの「lang-ja」ディレクトリーを、MTの「images」ディレクトリーの中にまるごとコピーする。

⑪ 日本語ランゲージパックの「mt-ja-patch」ディレクトリーを、「mt-ja-patch.cgi」「patch」の3つのファイルを、mt.cfgのあるディレクトリーにコピーする。

⑫ 日本語化に必要なPerlのモジュール「Jcode」をダウンロードして解凍し、中にあるファイル「Jcode.pm」とディレクトリー「Jcode」を、MTの「extlib」の中にまるごとコピーする。

<http://search.cpan.org/CPAN/authors/id/D/DA/DANKOGAI/Jcode-0.83.tar.gz>

4 Wordなどのワープロソフトでは保存時に拡張子が変わってしまうことがあるので、必ずテキストエディターを使う。ただし、ウィンドウズ付属のメモ帳ではUnix形式の改行コードを認識できないので使えない。

▶ データベースにMySQLが利用できる場合の設定

MySQLを使わない場合はこの項目は飛ばしていい。MySQLを利用するならば、mt.cfgの22行目にある「DataSource ./db」(データファイルの設置場所)の行を削除して、代わりに次の内容を設定する。

```
ObjectDriver DBI::mysql
Database データベースの名前
DBUser データベースのユーザー名
DBHost データベースサーバーのホスト名
```

データベース名などがわからない場合は管理者に問い合わせること。

そして、mt-db-pass.cgiというファイルを開いて、データベースのパスワードを直接書き込んで保存する。mt-db-pass.cgiはCGIファイルではなく、単にパスワードを登録しておくだけのファイルだ。

▶ サーバーにアップロードしてインストール作業をしよう

1 まずアップロードしやすくするために、ファイルを整理しておこう。MTのディレクトリーの中に「db」ディレクトリーと「mt-static」ディレクトリーを作り、次のファイルを「mt-static」ディレクトリーに移動する(図4)。

- ・ docs ディレクトリー
- ・ images ディレクトリー
- ・ index.html
- ・ styles.css

MySQLを利用する場合には、dbディレクトリーを作る必要はない。

2 では実際に、MTのディレクトリーのファイルをFTPでサーバーにアップロードしよう。図5を参考に、ファイルを2か所に分けてアップロードする。

3 ファイルの転送とディレクトリーの作成ができたなら、拡張子が「.cgi」のファイルのパーミッションを「755」に変更する。mt-db-password.cgiだけは644にする。

4 ブラウザーで「mt-ja-patch.cgi」のURLを開いて実行する。

URL <http://サーバー名/cgi-bin/mt-ja-patch.cgi>

ページに「Done」表示されれば日本語化作業が完了している。うまく実行されない場合はパーミッションを確認しよう。

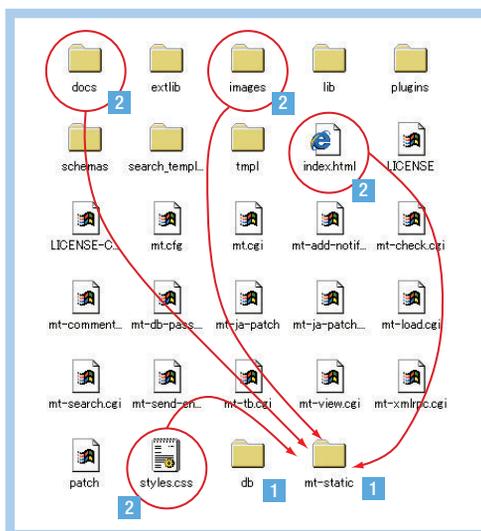


図4 アップロード前に必要なディレクトリーを作り、ファイルを整理する

- 1 まずdbディレクトリーとmt-staticディレクトリーを作る。
- 2 次に、指定されたファイルとディレクトリーをmt-staticディレクトリーに移動する。

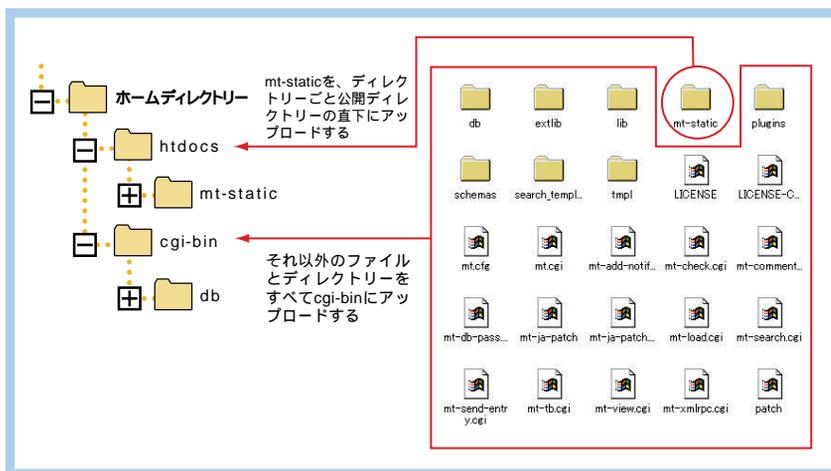


図5 サーバーへのファイルのアップロード

5 ブラウザーで「mt-load.cgi」のURLを開いて実行する。

URL <http://サーバー名/cgi-bin/mt-load.cgi>
成功すると、「Done loading initial

data! All went well」というメッセージが表示される。これでインストールの作業の第1段階が完了だ。

▶ ログインしてユーザー設定すれば後はブログを作るだけ

- 1 実際にログインしてみよう。ブラウザで、MTディレクトリーのmt.cgiを開く。
URL http://サーバー名/cgi-bin/mt.cgi
 管理画面のログイン画面が表示される。初期ユーザーが設定されているので、次の設定でログインしよう(図6)。

ユーザー名: Melody
 パスワード: Nelson

- 2 ログインできることを確認したら、サーバー上のmt-load.cgiを削除する。このファイルを残しておくトラブルの元になる。
- 3 標準では英語の表示なので、「EDIT YOUR PROFILE」をクリックする(図7)。
- 4 ユーザー名などの情報を入力して、

「Preferred Language」を「Japanese」に設定する。新しいパスワードを設定したら、パスワードを忘れた場合の復旧用の合い言葉として「Birthplace」に自分の生まれた場所を入力する。「Save」をクリックすれば、新しいユーザー名とパスワードになり、日本語で利用できる(図8)。

- 5 画面上部の「MENU」をクリックしてメニュー画面に戻り、右側のメニューにある「新規ウェブログを作る」をクリックして、ブログの設定を入力する。値は後から修正できるが、必要な情報を調べて正しく設定しよう(図9)。
- 「保存」をクリックしてから、画面の上部に表示される「再構築」をクリックすると、ウェブログが完成する。
- 後は左のメニューから「エントリーの投稿」で記事を投稿したり、「テンプレートの編集」からスタイルシートを編集したりして、自分のブログを作っていく。

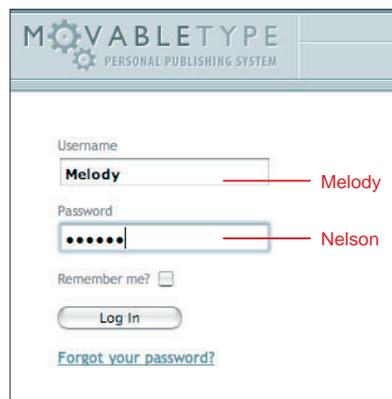


図6 最初のログインは決められたユーザー名で

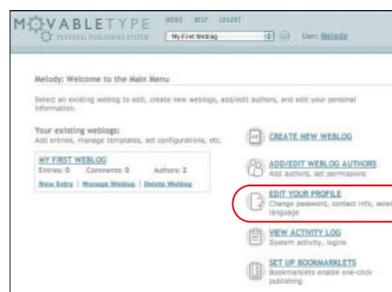


図7 まだ英語画面なので日本語に設定を変える

Main Menu > Edit Your Profile

Edit your author profile here. If you change your username or your password, your login credentials will be automatically updated. In other words, you will not need to re-login.

Username: (MTへのログインに使うユーザー名)

Nickname: (ニックネーム)

Email Address: (電子メールアドレス)

Website URL (optional): (自分のサイトのURL)

Preferred Language: **Japanese** (「Japanese」を選ぶ)

Change your password

Password: (MTのログインに使うパスワード)

Password confirm:

For Password Recovery

Birthplace: (パスワードを忘れた場合の質問の答え(生まれた場所を入れておく))

Save

図8 まずはユーザー情報を変えて日本語表示にしよう

メインメニュー > 新しいウェブログを作る

ウェブログに名前をつけてください。つけた名前はいつでも変更できます。

ウェブログの名前:

サーバ上でメイン・インデックスを置くディレクトリ(Local Site Path)を入力してください。絶対パス(/で始まる)も設定できますが、Movable Type のディレクトリからの相対パスでもかまいません。例: /home/melody/public_html/blog

Local Site Path:

このウェブログを公開するウェブの URL を入力してください。ファイル名(index.html など) は入力しないでください。例: http://www.site.com/

サイトの URL:

Local Site Path に相当する、ウェブで見える場合の URL。
例: http://internet.impress.co.jp/

アーカイブ・ファイルを置く、サーバ上のディレクトリ(Local Archive Path)を設定してください。(Local Site Path と一緒でも大丈夫です) 例: /home/foo/htdocs/blog/archives

Local Archive Path:

記事ごとのページや月ごとのアーカイブのHTMLファイルを置くディレクトリを指定する。わからない場合は、Local Site Pathと同じしておくのがトラブルが少なくていいだろう。

Local Archive Path に対応する、ウェブで見える場合の URL。Local Archive Path を Local Site Path と同じにしていた場合は、ここは「ウェブログの URL」と同じ値を設定する。

Local Archive Path:

Local Archive Path と同じにしている場合は、ここは「ウェブログの URL」と同じ値を設定する。

時間帯をプルダウンメニューから選んでください

時間帯: (UTC+9 (日本時間)) (「UTC+9」を選ぶ)

保存

図9 ウェブログの設定は相対パスが楽



とっておきの活用テクニック Movable Typeの蔵出しTIP

1 JavaScriptで だれでも記事を配信

MTのタグを使って、最新の記事一覧を他のウェブログに取り込める仕組みを作ってみよう。RSSを使えば同じことができるが、ここでは、だれでもすぐに利用できるJavaScriptを作る仕組みにしてみよう。

ブログの「**テンプレート編集**」で「新しいインデックス・テンプレートを作る」を選ぶ。「**テンプレートの名前**」を「**配信用JS**」に、「**出力ファイル名**」を「**recent.js**」にしよう。内容は次のようにする。

```
<!--
s='<div class="sidetitle">Recent
Entries</div><div class="side"><MTEntries
lastn="5"><a
```

```
href="<$MTEntLink$>"><$MTEntTitle$
></a><br /></MTEnties></div>';
document.write(s);
// -->
```

「s=」から「</div>」までは改行せずに1行で書く。これで最新のエントリー5個をページに埋め込むJavaScriptができる。完成したら一度ブログを再構築しておこう。

他のサイトの人は、次のようなコードをテンプレート上の表示したい部分に書く。

```
<script type="text/javascript"
src="http://サーバー名/recent.js">
```

「src=" ~ "」の部分は、あなたのサイトの設定に合わせて設定する(JavaScriptを使う人のサーバーではない)。この場所にあなたのウェブログの最新記事が表示さ

れる。

たとえば、あなたがMTでニュースサイトを運営しているならば、読者は自分のブログにこの「<script ~>」を埋め込む。すると、あなたが記事を更新すれば、即座に読者のサイトにも最新記事の見出しが表示されるようになる。

Recent Entries

- 旅の指さし会話帳 English Edition
- 「人」という字 - 常用字解
- ひらたアイコン
- Orkut? ソーシャルネットワーク?
- Developer Summit で講演してきました
- MT 2.66 & 2.661
- 出張報告
- ショックなデキゴト
- 上陸
- 業務連絡:サンフランシスコへい

図10 知り合いのブログのサイドバーなどに、あなたのサイトの最新記事を簡単に表示してもらえる。

2 サイト全体へのトラックバックを受け付けられるようにしましょう

MTなどのブログツールを使う楽しみの1つはトラックバックを使うことだ。MTには、記事だけでなくカテゴリにもトラックバックを送信する機能があるので、これを使って、サイト全体へのトラックバックを受け付けられるようにして、受けたトラックバックを表示するページを作ろう。

まず、トラックバック受信専用としてカテゴリを1つ作成する(このカテゴリには記事は登録しない)。カテゴリの編集画面から「**カテゴリの属性を編集する**」を選んで「**トラックバックを受けつけます**」をOnにして保存する。これで、カテゴリでトラックバックを受けられる状態になり、画面の下のほうにトラックバックURLが表示されるので、これをサイト全体のトラッ

バック先として表示しておく。

次に、サイト全体へのトラックバックを表示するためのインデックステンプレートを作って表示させる(下記)。

図11 筆者の執筆した書籍『Movable Typeで今すぐできるウェブログ入門』のサポートページでは、この仕組みを使ってウェブログへ全体のトラックバックを受け付けている。
URL http://weblog.uva.ne.jp/trackback.html
メッセージを変更すれば、いろいろな使い方ができるだろう。



トラックバック専用ページの内容(抜粋)

```
<h3 class="title">トラックバック</h3>
<p>受信したトラックバックの一覧です。トラックバック URL は <a href="<$MTCategoryTrackbackLink category="Trackback"$>"><$MTCategoryTrackbackLink category="Trackback"$></a> です。<br /></p>
<MTPings category="Trackback"><div class="trackback-body">
<a name="<$MTPingID$>"></a><span class="trackback-post"><a href="<$MTPingURL$>" target="new"><$MTPingTitle$></a><br />
<b>概要</b> <$MTPingExcerpt$><br />
<b>ウェブログ:</b> <$MTPingBlogName$><br />
<b>時刻:</b> <$MTPingDate$></span>
</div></MTPings>
```



商用でも自由に使える **高機能ブログツール**

Nucleus 2.5 は 簡単インストール

複数ユーザーでのブログ運営もできる

text: 樋口 理 <http://www.higuchi.com>

▶ ブログツールとしての機能をひととおり備えた Nucleus

Nucleus(ニュークリアス)は、ベルギーの Wouter Demuyck 氏が 2000 年ごろから開発しているブログツールです。サーバーにインストールして動かすタイプのツールで、記事を入力する管理画面があり、入力した記事を自動的にブログサイトとして表示してくれます。カテゴリごとや月ごとのアーカイブページを作ったり、読者がコメントを入力したりするなどの基本的なブログの機能はもちろん、次のような特徴があります。

・オープンソースである

オープンソースのライセンスである GPL に基づいて配布されているので、ほとんど制限なく自由に利用できる。

・複数のブログを管理できる

1つのウェブサーバー内に複数のブログサイトを構築できる。さらに、1つのブログを複数の著者で書ける。

・記事の装飾が簡単

記事入力画面に太字、斜体、リンク、左・右・中央揃え、画像の配置などのボタンがあり、簡単に HTML を入力できる。

・プラグインが豊富である

カレンダーやトラックバックなどの機能はプラグインで提供されるモジュール構造になっている。プラグイン開発の情報が公開されているので、各種のプラグインが豊富に揃っている。

・日本語化が進んでいる

言語ファイルを使ってメニューの文字を差し替える機能など、多言語への対応が考慮されており、さらに日本語化パッカー



記事にコメントやトラックバックを付ける機能、カレンダー、RSS、パーマリンク(記事ごとのページ)など、普通に考えられるブログサイトを簡単に実現できる。

ジの配布や日本独自のプラグイン、スキン、テンプレートの開発なども活発に行われている。

・ブログのデザインを自由に変更できる

スキンやテンプレートを変更するだけでサイト全体のページの構成やデザインを瞬時にカスタマイズできる。



Nucleus は Movable Type とココが違う

・ページの生成が動的

MTをはじめとする多くのブログツールは、記事を書き込んだときにそのページの HTML ファイルを生成して、他のページやインデックスページなどの既存ページのファイルも一斉に更新(ビルド)します。ページの登録や編集のたびに過去の多くのページを作り直すため、ページが増えてくると登録時に時間がかかるようになります。

Nucleus は、書き込んだ記事の内容をデータベースに収納しておいて、アクセスされたときにデータベースを参照してページを動的に生成するので、記事の登録・更新や、ページ

のデザインや構成の変更が瞬時に全サイトに反映されます。動的生成で気になるパフォーマンスも、通常のサーバーならば月間ページビューが数十万程度では問題になりません。

・将来の記事を作成しておく

動的にページを生成するため、将来の日時を指定して記事を投稿することで、あらかじめ作った記事が指定した日時になると自動的に表示されるようになります。

・PHP + MySQL の環境が必要

MT で使われている Perl に比べると、

Nucleus を動かすのに必要な PHP + MySQL の両方が用意されているサーバーは比較的少なくなります。

・GPL なので自由に利用可能

MT は独自ライセンスで、個人利用は無料ですが、商用利用には費用がかかります。Nucleus はオープンソースのライセンスである GPL に基づいて自由に使用・複製・変更・配布できます。また、オリジナルのプログラムはあらゆる利用目的に対して無料で配布されているので商用利用も自由です。



Nucleus を動かすにはコレが必要

Nucleus をインストールして使うには、サーバーに次の環境が必要です。

- ・ PHP が動作するウェブサーバー
- ・ PHP 4.0.6 以上、できれば 4.1.0 以上
- ・ MySQL 3.23.38 以上

現在使っているウェブサーバーで使われている PHP や MySQL のバージョンやシステム設定を調べるには、中に

```
<?php phpinfo()?>
```

とだけ書かれた test.php というファイルをウェブサーバーにアップロードして、その URL をブラウザで開きます。すると、PHP の設定の内容が表示されます(図)。

ページの先頭に PHP のバージョンが表示されるので確認しましょう。ページが表示されない場合は、PHP が動作していない可能性があります。

スクロールして表示される「mysql」欄には MySQL のバージョンが表示されます。mysql の欄がない場合は、MySQL が使えない可能性があります。

さらにスクロールして「mbstring」欄を確認します。この欄がない場合は、PHP の「マルチバイト文字列関数」が組み込まれておらず、システムから管理者宛てに送信されるメールの文字化けや、入力された文字のエンコーディ

ングの不一致による文字化けなどがまれに起こってしまいますが、それ以外は問題なく動作します。 1

・内部文字コード
mbstring 欄の「mbstring.internal_encoding」には、PHP の内部処理に使う文字コードが表示されます。日本語対応済みの Nucleus パッケージには、文字コード別のパッケージが用意されています。ダウンロードするパッケージは、ここの表示される内部文字コード (mbstring.internal_encoding) に合ったものを選びます。この設定は php.ini や .htaccess などのファイルやプログラムの中の指定で変えられますが、よくわからない場合はそのままにするのが無難です。

・表示文字コード
mbstring 欄の「mbstring.http_output」には、PHP スクリプトから HTTP に出力される (つまりブラウザに表示される) ページのデフォルトの文字コードが表示されます。これは内部文字コードと同じになっていることが多く、現在配布されている日本語対応の Nucleus のパッケージもその前提で作られています。違う文字コードが設定されている場合は、php.ini

MySQL Support		enabled
Active Persistent Links	0	
Active Links	0	
Client API version	3.23.38	
MYSQL_MODULE_TYPE	builtin	
MYSQL_SOCKET	/tmp/mysql.sock	
MYSQL_INCLUDE		
MYSQL_LIBS		

Multibyte (Japanese) Support			enabled
http input encoding translation			enabled
multibyte regex support			enabled
Directive	Local Value	Master Value	
mbstring.detect_order	no value	no value	
mbstring.func_overload	0	0	
mbstring.http_input	no value	no value	
mbstring.http_output	no value	no value	
mbstring.internal_encoding	no value	no value	
mbstring.script_encoding	no value	no value	
mbstring.substitute_character	no value	no value	

phpinfo() の出力

や .htaccess ファイルなどの設定で表示文字コードを内部コードに合わせることをおすすめします。

これらの値が「no value」の場合、好きな文字コードのパッケージを使って大丈夫です。修正の方法がわかるならば、php.ini や .htaccess を修正して選んだ文字コードに設定しておくといいでしょう。

・XML 関連の技術に対応している

記事の要約情報を RSS として提供したり、新しい記事の追加を更新情報サイトに自動的に通知したりするなどの他サイトとの連携機能や、XML-RPC (XML を使った遠隔プログラム実行) によるブログ用クライアントツールを利用できたりする。

▶ Nucleus はこんな人にピッタリ

Nucleus は、次のような人に向いていると言えます。

- ・商用サイトでも、とにかく無料でシステムを作りたい人
- ・ブログの記事の追加や編集作業でいち

いち再構築されるのがいやな人

- ・サイトやページの構成やデザインの変更や切り替えを頻繁にやってみたい人
- ・1つのブログにみんなで書き込んだり、友達や家族にそれぞれ別のブログを用意してあげたりしたい人
- ・みんなが使っているのちょっと違う道具を使いたいけど、インストールや運用のわからないところを1人で悩んで解決するのはいやな人
- ・「Perl や Ruby じゃなくて、とにかく PHP が使いたい」という、手段のためには目的を選ばない人

上の条件に2つ以上当てはまる人は、次のページからの解説を読んで Nucleus

を導入してみましょう。Nucleus に必要な環境があれば、解説のとおりであればだれでも簡単にインストールできるはずです。

ただし、頻繁にサーバーを変える人は注意してください。将来において、Nucleus が稼働できない環境にサイトを引っ越さなければならぬ場合、MT などの静的なページを構築するブログツールを使っていれば、最悪の場合でも HTML ファイルを移設することで過去記事を新しいサーバーに移行できますが、Nucleus のように動的にページを生成している場合は、過去記事をなんらかの形で HTML に変換しないと、最悪の場合、過去の記事を捨てることになります。

1 問題のある機能についても、jcode.php ① などを使って文字化けしないように改造できます。日本語対応済みの Nucleus のパッケージには、マルチバイト文字列関数がかどうかを自動的にチェックして、必要ならば jcode.php を使って処理するようになっていものもあります。① <http://www.spencernetwork.org/>



日本語化済みNucleus 2.5なら 10分でインストールしてすぐに使える!

▶環境を確認してから Nucleusをダウンロード

Nucleusのインストールとセットアップは非常に簡単です。大まかに言うと、次のような手順で行います。

- ・インストールに必要な情報を調べる。
- ・ファイルをダウンロードしてウェブサーバーにアップロードする。
- ・ファイルとディレクトリーのパーミッションを設定する。
- ・初期設定スクリプトを実行する。

まず、Nucleusをインストールする前に、サーバーのユーザー名とパスワードに加えて、MySQLのホスト名(サーバー名)、MySQLのユーザー名、MySQLのパスワ

ード、MySQLのデータベース名と、PHPのデフォルトの内部文字コードを調べてメモしておきます。

準備ができればNucleusのインストールに必要なファイル入手します。現在では、ボランティアのみさんの努力で、日本語対応の修正が済んだプログラムと日本語言語ファイルがセットにされたものが配布されているのでそれを使いましょう。

Nucleusのプログラムファイルをダウンロードするには、Nucleusの日本語公式サイト(左のメニューから「Nucleus本体のダウンロード」をクリックします。

URL <http://japan.nucleuscms.org/>

この原稿を書いている時点のNucleusの最新バージョンは2.0で、開発中のバージョン2.5版も公開されています。この記事の解説ではインストールが非常に簡

単になった2.5版を扱います。日本語バージョン2.5版は大変安定していて実用上まったく問題はない品質なのですが、次のような制限があります。

- ・完成版までに仕様変更されると、移行作業(おそらく移行プログラムを1回実行するだけで済む)が必要になるかもしれない。
- ・2.0用に作られたプラグインは動かないことがあるので、2.5対応のプラグインが出るのを待つ必要がある。
- ・シフトJIS版の日本語パッケージは2.5の完全版が出るまでは用意されない。

では、「Nucleus v2.5 版 CVS(日本語版開発中バージョン)」のリンクをたどってファイルをダウンロードします。2.0でもインストールの基本的な手順や使い方に大きな違いはありません。

▶面倒なことはほんの少し Nucleusをインストールだ!

ダウンロードしたファイルは圧縮されているので、解凍してからFTPでサーバーにアップロードします。ここでは、すべてのファイルをサーバーの/blogディレクトリーにアップロードしましょう。

現在配布しているバージョン2.5の開発中バージョンに含まれる/buildという開発用ファイルのディレクトリーは、アップロー

ドしなくて構いません。ただし、/buildの中にあるconfig.phpファイルだけは/blogの直下にアップロードする必要があります。ファイルをアップロードしたら、FTPソフトなどを使って、次のファイルとディレクトリーのパーミッションを変更します。この作業を忘れると非常に面倒なことになるので注意してください(図1)。

- ・/config.phpのパーミッションを666に
- ・/mediaディレクトリーのパーミッションを777に

ファイルの設置が完了したら、初期設定スクリプトを実行します。ウェブブラウザから、Nucleusをインストールしたパスのinstall.phpを開きます。/blogディレクトリーにインストールした場合は、http://あなたのサーバー名/blog/install.phpという具合です。

PHPが動作していてファイルが正常に設置されていれば「Install Nucleus」(図2)という画面が表示されるはずですが。

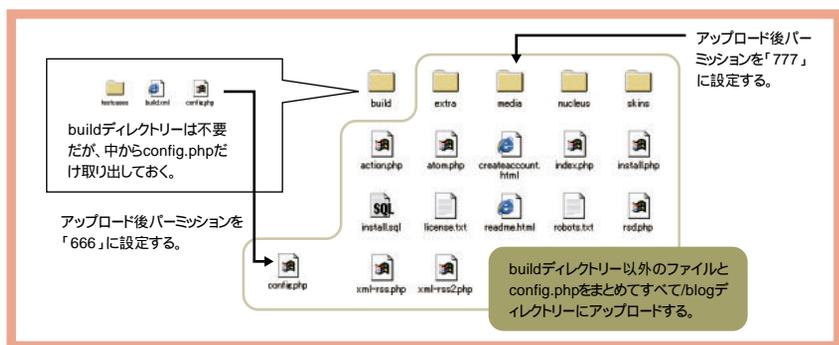


図1 アップロードが必要なNucleusのファイル



図2 初期設定スクリプトの画面

Nucleusお役立ちサイト [Nucleus公式サイト日本語サイト](http://www.nucleuscms.org/) [URL http://japan.nucleuscms.org/](http://japan.nucleuscms.org/)
 Nucleusお役立ちサイト [まみおさんによるブログサイトには、各種のプラグインやパッチ情報が豊富にあります](http://xx.nakahara21.net/) [URL http://xx.nakahara21.net/](http://xx.nakahara21.net/)

▶ インストールスクリプトの実行

1 MySQLのログイン情報の入力

MySQL Login Dataの欄で、MySQL サーバーのホスト名(Hostname) ユーザー名(Username) パスワード(Password) データベース名(Database) を入力します。

2 URLとディレクトリーパスの指定を確認

Directories and URLsの欄で、各種のディレクトリーと、それに対応するURLを入力します。自動検知した結果が入っているため、ほとんどの場合そのまま問題ないはずです。修正する場合には、ディレクトリーパスは絶対パスで、また、ディレクトリー名とディレクトリーのURLは最後の/を付けて表記します。

4 ブログサイトの名前を入力

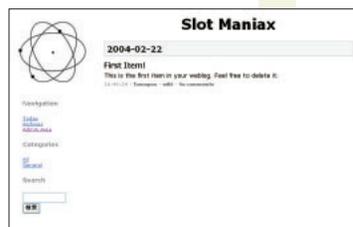
Weblog Dataの欄で、ブログの名前(サイトに表示されます)とその短縮名(アルファベットと数字のみ を記入します。短縮名は外部に表示されることはない)で、デフォルトのmyweblogのままよいでしょう。後から変更できます。入力したら、一番下にある[Install Nucleus]ボタンをクリックします。

3 管理者の設定を入力

Administrator Userの欄で、管理者(あなた)のログイン名(Display Name、アルファベット・数字・空白のみ) 実名(Real Name) パスワード(Password) メールアドレス(E-mail Address) を入力します。

5 「Installation complete! 」と表示されれば、インストール処理が完了して、設定した内容に従ってconfig.phpファイルが自動的に書き換えられています。バージョン2.0を使用している場合と、2.5でも何らかの理由でconfig.phpファイルの書き換えに失敗した場合には、「Installation Almost Complete! 」と表示されて、config.phpに書き込むべき内容が表示されます。この場合は、ブラウザの画面に表示された「<?php 」から「 ?> 」の間をコピーして、その内容でconfig.phpファイルを書き換えます。前後に余計なスペースや改行が入らないよう気を付けてください。データベースのパスワードの部分だけは、次のように伏せ字になっていますので、正しいパスワードに書き換えます。
\$MYSQL_PASSWORD = 'xxxxxxxxxxxx';
 その後、書き換えたconfig.phpをサーバーにアップロードします。

6 これで初期設定は完了です。最後に次の作業を行えば、インストールは完了です。
 ・ config.phpのパーミッションを644に変更する。
 ・ Nucleusをインストールしたディレクトリー(/blog)にあるinstall.phpとinstall.sqlの2つのファイルを削除する。
 ・ Nucleusをインストールしたディレクトリー(/blog)の下のnucleusディレクトリーにある/convertと/upgradesを、ディレクトリーごと削除する。



7 システムはすでに稼働状態になっています。Nucleusをインストールしたディレクトリー(/blog)がブログのURLなので、ブラウザで開いてみましょう。First Itemという記事が自動的に入った、Nucleus標準のデザインのブログができあがっています。
URL http://あなたのサーバー名/blog/
 日本語版パッケージをインストールした場合は特に日本語化の作業は必要なく、このまま記事を書き込めます。

Nucleusお役立ちサイト タカさんによる「サイケデリックピアニオ」サイトの「Nucleus Notes」コーナーには、Nucleus関連の情報が詰まっています **URL** http://vivian.strippler.jp/index.php?blogid=2

▶初めての書き込み!

Nucleusで記事を投稿してみよう

①動作試験を兼ねて、何か記事を書き込んでみましょう。記事の書き込みなどのブログの管理は、Nucleusのブログ管理画面から行います。ブログの画面左にある「Admin Area」をクリックするか、ブログがあるディレクトリーの下のnucleusというディレクトリーのURLにアクセスします。

☞ <http://あなたのサーバー名/blog/nucleus/>
ログイン画面が表示されるので、初期設定のときに登録したログイン名とパスワードでログインします。



②管理画面の一番上にはこのサイトにあるブログが一覧になって表示されます。初期設定のときに指定したブログが1つあるので、そのブログの名前の隣にある「アイテムの追加」をクリックします。

③記事の投稿画面で「タイトル」と「本文」を記入して「アイテムを追加」をクリックすれば記事が追加できます。記事のテキストは、改行が
に自動的に変換されるほかは、そのままHTMLとして表示されるので、自由にHTMLタグが使えます。「&」や「<」などの文字は「&」や「<」などと入力する必要があります。カテゴリ欄で「新しいカテゴリ」を選べると、記事を保存するときにカテゴリの名前を入力する画面が現れて、カテゴリを追加できます。そのほかにも、指定した日時になってから記事を表示するようにしたり、記事単体のページだけに表示される「続き」を書いたりできます。



新しい記事を追加するテスト

本文の欄に記入した内容が、インデックスページの「リード」して表示される。続きの欄に記入した部分は、インデックスページには表示されず、個別の記事ページだけに表示される。

23:16:36 - Tomopoo - edit - No comments

④記事を追加したら、即座にブログサイトに今書いた記事が表示されるので確認してみましょう。記事の下の「No comments」をクリックすると、その記事単体のページが表示されて、コメントを入力できます。コメントではHTMLタグは使えません。

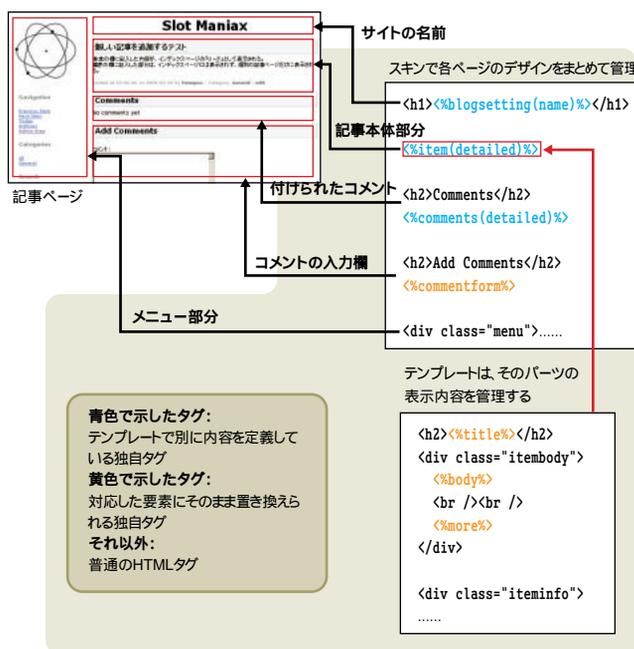
▶画面デザインの変更は

スキンとテンプレートで自由自在

ブログのデザインを変えたり、表示文字コードをHTMLページの<HEAD>に指定したりするには、Nucleusの「スキン」や「テンプレート」を書き換えます。管理画面の左メニューにある「スキンの編集」や「テンプレートの編集」をクリックして、編集したいスキンやテンプレートの名前をクリックすると編集画面になるので、内容を書き換えて「スキンの更新」をクリックすれば瞬時にデザインが変更されます。

スキンとテンプレートはHTMLの中に独自の拡張タグを埋め込んだような構造で、ページの各構成要素に対応したパーツを「テンプレート」で定義しておいて、ページ全体のデザインを「スキン」で決める仕組みになっています。誌面の都合上ここではNucleusの独自タグについては詳しくは触れませんが、スキンの編集画面で独自タグ名とそのヘルプを見られるので、いろいろと試してみましょう。記事のデータと画面デザインは独立しているので、スキンの編集に失敗しても書き込んだブログの記事が失われることはありません。

Nucleusの出力するページと「スキン」「テンプレート」「独自タグ」の関係



Nucleusお役立ちサイト Felさんによる「Nucleus日本語バック」サイトには、日本語化したインストーラーや、各種のスキン、テンプレートなどがあります ☞ <http://nucleus.fel-is.info/>
Nucleusお役立ちサイト 筆者のブログの「Nucleusのワザ」のカテゴリには、日本語パッチ情報などを集めてあります ☞ <http://www.higuchi.com/>



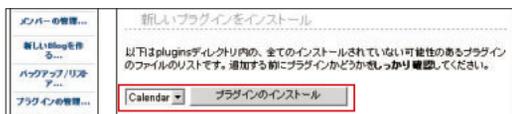
とっておきの活用テクニック Nucleus 2.5の蔵出しTIP

1 カレンダープラグインで ブログサイトらしくする

Nucleusでは、機能を追加するためのさまざまなプラグインが開発されています。プラグインの一覧はNucleus公式サイト「各種プラグインのダウンロード」からリンクをたどってください。まだ英語ページへのリンクが主ですが、日本語のページへのリンクも増強する予定です。ここでは、ブログで定番のカレンダー表示の機能を、プラグインで追加してみましょう。

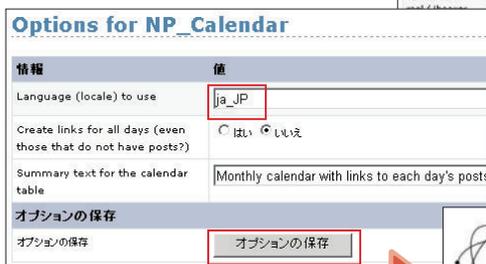
URL <http://japan.nucleuscms.org/plugins.php>

1 上記のプラグイン一覧のページから「Nucleus Wiki: プラグイン(日本語)」「NP_Calendar.php」とリンクをたどり、日本語化されたファイルをダウンロードします。解凍したファイルを、サーバーのnucleusディレクトリの下にあるpluginsディレクトリにアップロードします。



2 Nucleusの管理画面の「プラグインの管理」を開くと、「新しいプラグインをインストール」にアップロードした「Calendar」が表示されるので、「インストール」ボタンをクリックします。

3 「インストール済み」のセクションに「Calendar Plugin」が追加されるので、「編集オプション」をクリックして、「Language (locale) to use」の欄を「en」から「ja_JP」に書き換えます。



4 管理画面の「スキンの編集」を使って、カレンダーを挿入したい場所に<%Calendar%>(先頭は必ず大文字)というタグを入れて、スキンを更新します。ここでは「default」スキンの「メインの目次」パーツの中の「<h2>Navigation</h2>」という行の下に入れて、「スキンの更新」をクリックします。すると、ブログのトップページにカレンダーが表示されます。



2 トラックバックプラグインで さらにブログの機能強化だ!

文字コード判別などの問題を修正済みの日本語対応トラックバックモジュールがボランティアのみさんの手で作られて公開されていますので、インストールしてみましょう。Nucleusの日本語化を進めているまみおさんのサイトから、NP_TrackBackファイルをダウンロードします。

URL <http://xx.nakahara21.net/item-397.html>

最新版がリリースされている場合があるので、「NucleusのTips」ページを確認してみるといいでしょう。

URL http://xx.nakahara21.net/catid_2_blogid_1.html

ダウンロードしたファイルを解凍したら、

先ほどのカレンダーと同じ要領でアップロードしてインストールします。オプションの編集は必要ありません。インストールが終わったら、管理画面の「スキンの編集」から「default」スキンの「アイテム」を選び、ページの<%commentform%>の下に次のコードを追加して「スキンの更新」をクリックすれば、個別記事のページのコメント投稿フォームの下にトラックバックの欄が表示されます。

```
<a name="trackback" id="trackback"></a>
<h2>TrackBack</h2>
<%TrackBack(list)%>
```



トラックバックプラグインのその他の機能については、解説ページ(英語)を参考にしてみましょう。
URL <http://nucleuscms.org/plugins-trackback.php>

Nucleusは無償で利用できますが、開発者のWouter Demuyck氏は寄付も歓迎しています。PayPal経由で現金を寄付したり、英国Amazonのウィッシュリストにある商品をプレゼントすることで、簡単に寄付できます。Nucleusが気に入ったら、少しでも感謝の気持ちを表すのがいいでしょう。 URL <http://japan.nucleuscms.org/donate.php>



シンプルな本体と
無限の拡張性

玄人好みの自由度の高さ

Blosxom 2.0

は

ひと味違った

自作PCのようなブログツール

text: 長嶋 享 <http://hail2u.net/>

▶ ブログに限らない応用も可能 柔軟性の高いブログツール

Blosxomは、図1に示すような、シンプルかつ拡張性の高いデータ表示プログラムで、次のような特徴を持つ。

・Blosxom本体は非常にシンプル

Blosxomの本体は、blosxom.cgiという、17Kバイト程度のPerlスクリプトたった1つである。Movable Typeのファイルが合計300個以上あって3Mバイトにもなることを考えると、非常にシンプルだ。

・プラグインで自由自在に拡張可能

Blosxomはプラグインで機能を拡張できる仕組みになっていて、プラグインは

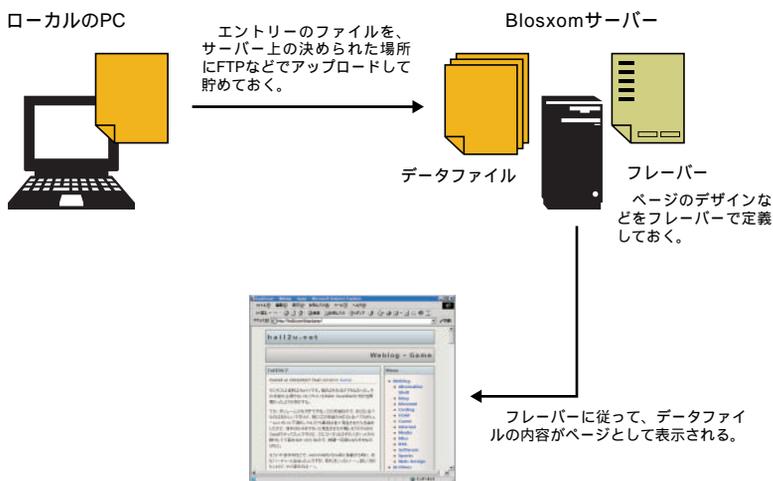


図1 Blosxom本体はシンプルなデータ表示プログラムテンプレートである「フレーム」や、各種のプラグインを利用して、カテゴリー、コメント、トラックバックなどの機能や、エンTRIESの入力・編集画面を自分で付け加えられる。



BlosxomはMovable Typeとココが違う

・パーツから自分で組み上げるブログ

標準のBlosxomは、Movable Type (MT)ほど親切丁寧なブログ環境ではないというのは初心者には大きな違いだが、そこは、実際にはプラグインやフレームでいくらでもカスタマイズできる。実現できるブログサイトの表現ではあまり違いはない。

BlosxomとMTの違いという点を突き詰めると、Blosxomのほうがはるかに柔軟で制約が少ないという点に行き着く。MTをDELLのBTO (注文仕様製作)のPCだと例えるならば、Blosxomは秋葉原でパーツを買ってきて自分で組み立てた自作PCだ。1つ1つのパーツに至るまで自分で選んで組み立てたPCには格

別の愛着を有するように、Blosxomで作ったサイトは、自分で作り上げたという達成感と愛着を有するのだ。

・自由度を実現するプラグインの仕様

プラグインの仕組みがシンプルで、気軽にプラグインを作って拡張できる点もメリットだ。MTのプラグインの設計はしっかりとしているが、それだけ事前に把握していなければならぬことが膨大で、なかなかプラグインを自分で作成してカスタマイズとまではしづらいだろう。

・シンプルなテキストによるデータ管理

エンTRIESが単なるテキストファイルである

ということも大きな違いだ。これはデータベースなどを必要としないだけでなく、ちょっとした修正ならばエディターで書き直してアップロードしなおすだけなどという手軽さも意味する。

それ以外にも、記事のジャンルを示すカテゴリーを何段階にもできることや、カテゴリーごとにテンプレートを切り替えられるという違いもある。

最後になったが、何よりも、Perlと同じ自由のライセンスで提供されているフリーソフトだということは忘れてはいけない。Blosxomは、商用でも何でも無償で自由に使えるうえに、Blosxom自体を販売するのも自由なのだ。



Blosxom を動かすにはコレが必要

Blosxomを動かすのに必要なサーバーの環境は、他のブログツールに比べると比較的制限が少ない。

まず、Blosxomのエントリーは単なるテキストファイルなので、MySQLなどのデータベースは必要ない。Movable Typeで必要とされる Berkeley DBやDBFileといったものすら

Blosxomには必要ないのだ。

必要なのは、Perlのバージョン4または5が標準モジュールを含めて普通にインストールされていることだけだ。つまり、CGIでPerlが利用可能なサーバーならば、大丈夫だ。言い換えれば、ほとんどの環境ではBlosxomの設置に問題はないはずだ。

ただし、追加するプラグインによっては、Perlの標準モジュールには含まれていないモジュールが必要になる場合もまれにある。とは言え、多くのプラグインは標準モジュールだけを利用して作られているので、ほとんどの場合はあまり気にすることはないだろう。

盛んに作成・配布されている。プラグインの仕様は非常に柔軟で、本体の標準の挙動を変えてしまうこともできるため、やろうと思えばプラグインでBlosxomをほとんど完全に生まれ変わらせることも可能だ。

・いつものエディターで記事を書ける

多くのブログツールでは、ブラウザー上でエントリーを書くことを強いられるが、Blosxomでは、あなたがいつも使っているお気に入りのテキストエディターでエントリーを書き、それを決められた場所に保存すればいい。これにより、記事のバックアップが自動的に取れるというメリットも生じる。

・日本語の処理に気を遣わなくていい

Blosxomは海外製だが、文字コードに依存する処理がほとんどないので、そのまま日本語も問題なく扱える。バージョンアップのたびにいちいち日本語化する作業が必要ないということだ。

・テンプレート構造がシンプルである

「フレーバー」と呼ばれるBlosxomのテンプレートは、とてもシンプルだ。独自に覚えなければいけないタグなどが少ない、旧来のスキン型掲示板CGIや日記CGIと似た単純なものである。作成が楽なことはもちろん、それら旧来のCGIスクリプトからの移行も楽だろう。

・出力が自由自在である

Blosxomの出力は、HTMLに限らずいろいろな形式に変えられる。WZ Editorのアウトライン形式やSVGなど 1) 中身がテキストのものは、フレーバーをうまく書くだけで出力できる。RTFやTeX(1)・PDF・Flashなども、変換プログラムにデータを渡すプラグインを作れば出力が可能だ。Perlに堪能な人ならば、ImageMagikやGDなどと連携するプラグインを作って画像ファイルを作ることも可能だろう。

▶ Blosxomを使うとこんなことができる

普通のブログはもちろん、それ以外でも「やろうと思えば、何でもできる」と言ってもいいだろう。

Blosxomのデータのルールは、決められたディレクトリーに、指定の拡張子で、1エントリーごとに1ファイルずつ、テキスト形式で保存しておくというものだ。

たとえば、1メール1ファイルで保存する電子メールソフト(WinBiffや鶴亀メールなど)のデータ保存ディレクトリーをBlosxom

のデータディレクトリーにすると、Blosxomでメールを閲覧できる。日ごとに整理して出力されるウェブサーバーのアクセスログを眺めるのに使うという手もある。

社内ネットワークの共有ディレクトリーをデータディレクトリーにして、そこに社内のスタッフが好みにテキストファイルでメモを保存すれば、簡単な掲示板としても使える。ログは半永久的にためられる。RSSも出力できるので、掲示板をRSSリーダーで閲覧することも可能だ。

▶ Blosxomはこんな人にピッタリ

標準のBlosxomは他のブログツールのように親切丁寧に面倒を見てくれず、いろいろと自分でする必要があるので、面倒なことが嫌いな初心者にはオススメしない。

オススメしたいのは、何か不満を感じたら、フレーバーを工夫したり、プラグインを作ったりして自分で解決したい人だ(Perlの知識は必要になるが……)。

いろいろなブログツールの挙動に納得いかず、自分の手になじむように自由に改造できるブログツールを探している人には、まさにピッタリだと言える。

ちなみに、最新版のBlosxom 3が現在作成中だ。基本的な使い方は変わらない予定のようだが、2.0のプラグインは使えなくなるということだ。その代わりに、プラグインなどを作りやすいオブジェクト指向の構造になる予定だと言われている。



あなたの工夫次第で、プラグインを組み合わせたりフレーバーをカスタマイズしたりして、自分だけのブログツールにできる。

1 「WZ Editorのアウトライン形式」は、行頭にピリオドを置いて階層を表現するアウトライン形式。「SVG」は、線画の情報を文字で記述するグラフィック形式。「RTF」はリッチテキスト形式。「TeX」はUnixを中心に論文や文書を作るのに使われるドキュメント記述言語。どれもデータはプレーンテキスト形式で書かれている。



まずはBlosxom本体をセットアップして 少しずつカスタマイズしていこう

▶ blosxom.cgiで初期設定 サーバーに合わせて書き換える

まずは本体の入手だ。

<http://www.blosxom.com/>

公式サイト左メニューの「Downloads」から「Everyone」をクリックしてダウンロードのページを開き、「Everyone」セクションにある[ZIP]をクリックしよう。

また、同じページにフレーバーのサンプルもあるので、「Flavours」セクションの[ZIP]をクリックしてダウンロードしておくといいだろう。

次は初期設定だ。ダウンロードしたファイルを解凍したら出てくるblosxom.cgiというファイルをテキストエディター(2)で開いて編集する。Blosxom本体の設定はすべてこのファイルで行う。10行目から67行目までが設定になるので、表1を参考に、自分のサーバーに合わせて書き換える。ここでは、サーバー上で図3のようにファイルを配置することを想定している。`$datadir`や`$plugin_dir`は必ず絶対パスを指定すること。編集時には、次の図を参考に、「`"`」や「`;`」を消してしまわないように注意してほしい。

```
$blog_title = "My Weblog";
```

設定する項目名 この部分だけを書き換える

設定が終わったら、ファイルをテキスト形式で保存して、blosxom.cgiをアスキー転送モードのFTPでアップロードする(図3)。一般的なCGIスクリプトをアップロードする要領でやればいい。また、blosxom.cgiで指定したように、`$datadir`、`$plugin_dir`、`$plugin_state_dir`などのディレクトリーも作っておく。

これでBlosxomを使う準備は完了だ。

表1 blosxom.cgiの初期設定

Blosxom本体の設定

<code>\$blog_title</code>	ブログのタイトルにする文字列。もちろん日本語でも構わない。
<code>\$blog_description</code>	ブログの説明文。もちろん日本語でも構わない。
<code>\$blog_language</code>	使用する言語を示すコード。日本語なので <code>\$blog_language="ja"</code> にする。
<code>\$datadir</code>	エントリーのデータやフレーバーを置くディレクトリーのパス。絶対パスを指定する。
<code>\$url</code>	Blosxomを設置したURL。Blosxom側で自動的に取得してくれるので、通常は空欄のまま変更しなくていい。うまく動かない場合は、「 <code>http://</code> 」で始まるURLを指定する。
<code>\$depth</code>	エントリーを探すためにデータディレクトリーをどれだけ深く探すかを指定する。0で無限に深く、1で <code>\$datadir</code> のみを、2で <code>\$datadir</code> から1階層下のみを探す。通常は0のままでもいい。
<code>\$num_entries</code>	1ページに表示するエントリーの数。多すぎると表示に時間がかかるので、サーバーの性能にもよるが5から15あたりがいいだろう。
<code>\$file_extension</code>	エントリーとみなすファイルの拡張子。ピリオドを含めずに指定する。通常は「 <code>txt</code> 」のまま変更しなくていい。
<code>\$default_flavour</code>	フレーバーが指定されなかった場合に使用するフレーバーの種類。通常は「 <code>html</code> 」のまま変更しなくていい。
<code>\$show_future_entries</code>	未来の日付になっているエントリーを表示するかどうかを指定する。1を指定すると未来の日付を表示するようになる。

プラグイン関連の設定

<code>\$plugin_dir</code>	プラグインを置くディレクトリーのパス。 <code>\$datadir</code> と同じく絶対パスで指定する。
<code>\$plugin_state_dir</code>	プラグインがデータを保存するディレクトリーのパス。通常は <code>\$plugin_dir/state</code> のままにして <code>\$plugin_dir</code> の下の <code>states</code> ディレクトリーを使えばいい。

静的生成関連の設定(基本的に変更しなくていい)

<code>\$static_dir</code>	静的なファイルを生成するとき、ファイルを出力するディレクトリーのパス。絶対パスを指定する。
<code>\$static_password</code>	静的生成を行うためのパスワード。指定しなければ静的生成は行えないので、まずはそのまま空欄にしておいて動的生成だけにするといい。
<code>@static_flavours</code>	静的生成で出力するフレーバー。半角スペースで区切って複数指定できる。
<code>\$static_entries</code>	静的生成時に、エントリーごとのページも生成するかどうかを指定する。

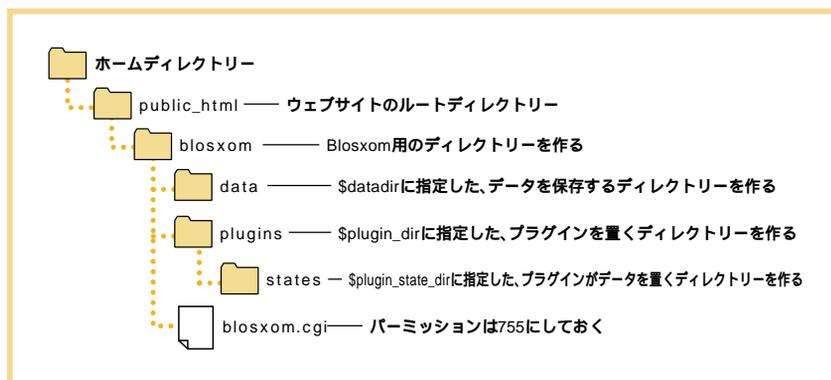


図3 サーバー上でのファイルの配置

絶対パスとは

「フルパス」とも言われるサーバー上の完全なパスのことで、場合によってはFTPで見えるパスとは異なる「`/home/sites/lolipop.jp/users/lolipop.jp-aa99999999/web`」などの長いパス名になることがある。KENT WEBで配布されている「フルパスビューワ」などで調べられる。

<http://www.kent-web.com/utility/>

2 ここで言う「エディター」はメモ帳や秀丸などのテキストエディターを指す。Wordなどのワープロソフトを使う場合は、保存時に必ずファイルの形式を「テキストファイル」にする必要がある。

▶ ブログサイトの第一歩
エントリーを投稿してみよう

アップロードしたら、まず `blosxom.cgi` の URL にブラウザでアクセスしてみる。

URL <http://サーバー名/blosxom/blosxom.cgi>

正しく設定できていれば、HTML が表示されるはずだ。タイトルだけで何もエントリーがなく、日本語も正しく表示されないかもしれないが、今は気にしないでいい。

問題なければ、エントリーを作ろう。記事はエディターで書いてテキストとして保存する。ファイルの1行目がタイトルになり、それ以降が本文になる。ファイル名は拡張子が `.txt` ならば何でもいい。

多くの場合はHTMLで出力することになるので、エントリーの本文は直接HTMLで書くのがいい。 `<p>` や `
` を使って改行を入れよう。プラグインで問題が出ることもある

アップロードしたエントリーファイルの1行目がエントリーのタイトルに、残りが本文になり、日付はファイルの日付が使われる。

```

最初のエントリー
<p><a href="http://www.blosxom.com/">
Blosxom</a>を使ってみました。</p>
<p>Blosxomはシンプルですが、柔軟なプラグインアーキテクチャを備えているので、隅から隅までカスタマイズ可能なブログツールです。
</p>
    
```



図4 テキストファイルの内容がブログ風に表示される
アップロードしたエントリーがブログ風に表示された。ここからフレーバーを使ってデザインしていく。

ので、タイトルにはHTMLタグは入れないほうがいい。

このエントリーファイルをFTPでアップロードする。ファイルの改行コードによっては、エントリーをうまく読めないことがあるので、転送はアスキーモードで行うのがいい。アップロードしたら、再びブラウザで

`blosxom.cgi` にアクセスしてみると、今度はエントリーが表示されるはずだ(図4)。まだフレーバーを設定していないので日本語が正しく表示されない場合があるが、気にしないでいい。今はブラウザの表示メニューでエンコードを「日本語」などにして確認だけしておこう。

▶ フレーバーでカスタマイズすれば
デザイン変更も自由自在

シンプルなブログサイトができ上がったわけだが、なんと殺風景だ。Blosxomで作サイトのデザインは、「フレーバー」と呼ばれるテンプレートによって行ったりRSSの出力などもフレーバーを使う。

公式サイト「Flavour Registry」にあるフレーバーを使うもいいし、Movable TypeのCSSファイルがそのまま利用できるフレーバー(3)もある。今回は、標準のBlosxomでも使えるちょっとしたフレーバーを用意したので、それを使ってみよう。次のURLからサンプルのフレーバーをダウンロードして、解凍したファイルの中の.htmlファイルをすべてサーバーのデータディレクトリーにアップロードするだけだ。

URL <http://internet.impress.co.jp/im/200405sp1/>
ブラウザでサイトを見てみれば、デザインが変わっているだろう(図5)。

サンプルフレーバーのHTMLファイルをエディターで開いて、書かれている内容を参考

にしながら、自分の好みのデザインに修正してみよう。フレーバーはHTMLやCSSの知識があればだれでも書ける。

フレーバーがHTMLと違うのは、Blosxomがエントリーの内容や日付などの、状況に応じて内容を置き換えるための「変数」と呼ばれるものを使うことだ。フレーバーの中に書かれている「`$body`」などの変数は、Blosxomがページを出力するときに、決められた対応する内容に置き換えられる。

また、1つのページを作るのに、ページの先頭部分、記事部分、日付部分など、対応する決められたファイル名のフレーバーが使われることにも注意が必要だ。

▶ フレーバーで利用できる変数

変数の使い方がテンプレートのキモとなる。変数には、どのフレーバーでも使用できる「グローバル変数」と、特定のフレーバーでしか利用できない変数、プラグインにより生成される変数の3種類がある。

グローバル変数は次のとおりだ。



図5 オリジナルのフレーバーを使えばかなり見られるデザインになる。カテゴリなどのアーカイブはプラグインを使わなければならないのですぐには実現できないが、サイト内のメニューやリンク、RSSフィードなどを並べたサイドバーならばフレーバーの変更だけで対応できる。

- `$blog_title` ブログのタイトル
- `$blog_description` ブログの説明文
- `$url` Blosxomを設置したURL
- `$path_info` Blosxomに渡されたパスや日付などの引数
- `$flavour` 表示に利用しているフレーバー名

特定のフレーバーでしか利用できない変数については後述する。

プラグインにより生成される変数では、変数名に注意が必要だ。「foo」という名前のプラグインの「bar」という変数は、「`$foo:bar`」という名前を使うのだ。

3 blosxom.orgで公開されているMovable Type互換フレーバーを使うには、いくつかのプラグインが必要だ。URL <http://blosxom.org/blog/archives/000543.html>

▶ フレーバーの種類

フレーバーのファイルには次のようなものがある(拡張子は設定で変えられる)。

• content_type.html

ドキュメントの種類と文字コードを指定する content-type HTTPヘッダーを定義するフレーバーで、一度だけ使われる。文字化けしないように正しく設定しよう。

• head.html

content_typeの次に一度だけ読み込まれるフレーバー。多くの場合、実際に表示されるものの最初の部分にあたる。HTMLのフレーバーでは、HTMLのヘッダーと、タイトルやページの冒頭の部分を定義する。

• date.html

データの日付(または時・分単位)が変わるごとに使われる。グローバル変数に加えて、次の変数が利用できる。

\$yr	年(2004など4桁の数字)
\$mo	月 Jan, Febなどの英語3文字
\$mo_num	月 01 ~ 12の2桁の数字)
\$da	日 01 ~ 31の2桁の数字)
\$dw	曜日 Sun, Monなどの英語3文字)
\$hr	24時間表示の時(00 ~ 23)
\$min	分(00 ~ 59)
\$hr12	12時間表示の時(00 ~ 11)
\$ampm	午前・午後(amまたはpm)
\$ti	24時間表示の時と分(\$hr:\$min)

• story.html

エントリーごとに繰り返されるフレーバー。グローバル変数とdateフレーバー用の変数に加えて、次の変数が利用できる。

\$title	エントリーのタイトル
\$body	エントリーの本文
\$path	エントリーのパス

• foot.html

最後に一度だけ読み込まれるフレーバー。サイドバーの内容や、</body>や</html>を書くことになるだろう。

▶ プラグインを使いこなせば Blosxom マスターだ!

Blosxomは標準で提供されている機能が少ないので、プラグインの利用は必須だ。すでに数多くのプラグインが公式サイト「Plugin Registry」や日本人のサイトで公開されているので、探してみるといい。すでにBlosxomを利用しているサイトで情報を探するのもいいだろう。

多くのプラグインは、サーバーのプラグイン用ディレクトリにアップロードするだけで動作する。blosxom.cgiのときのようにエディターで開いて設定する必要がある場合もあるが、説明を読みながら作業すればさほど難しくはないだろう。

ここでは、ブログサイトに適したプラグインを、公式サイトにあるものからいくつか紹介しておく。

• entries_index

Blosxomではエントリーの日付にファイルのタイムスタンプを使うので、ファイルを更新するたびにエントリーの日付が変わってしまう。entries_indexは、最初にアップロードした日時で固定するものだ。特に設定の必要はない。

• categories と archives

Blosxomのカテゴリ機能や月ごとのアーカイブページは、標準では使いにくい。categoriesとarchivesを使えば、カテゴリごとや年・月ごとのページへのリンクを簡単に作れる(図6)。headかfootのフレーバーに次のように書いて使う。

```
$categories::categories
$archives::archives
```

• rss10

標準のRSSよりも使いやすい、RSS 1.0 配信機能を追加する。フレーバーのサンプルをまとめたものが配布されているので、参考にすればすぐに使えるだろう(4)。



図6 categories プラグインや archives プラグインを使うと、アーカイブページへのリンクを簡単にサイドバー入れられる。

• wikieditish

FTPではなく、ウェブページからエントリーの新規作成や編集を可能にする(図7)。設定は難しいが、簡単な説明と専用フレーバーも同梱されているので、そちらを参照してほしい。

• writeback

コメント投稿機能とトラックバック受信機能を追加する。簡単な説明と専用フレーバーが同梱されているので、そちらを参照してほしい。

プラグインを自分で作る場合には、既存のプラグインを参考にして書き換えながら覚えていくのがいいだろう。公式サイトプラグインの解説もおおいに役に立つ(5)。



図7 wikieditish プラグインを使うと、他のブログツールのようにエントリーをブラウザから入力できる。

4 <http://blog.bulknews.net/mt/archives/000528.html>

5 「torus solutions!」の、Blosxomの動作の概要をまとめたページなども参考するといいだろう。 <http://www.torus.jp/doc/blosxom/blosxom.html>



とっておきの活用テクニック Blosxom 2.0の蔵出しTIP

1

URLからBlosxom本体のファイル名を隠す

Blosxomは動的にページを生成するものの、URLは次のようなものになり、動的生成ツールにありがちな、パラメーターがだらだらと続くURLにはならない。

```
http://サーバー名/blosxom/blosxom.cgi/foob/bar.html
```

しかし、CGI形式のプログラムであるために、URLにはBlosxom自体のファイル名が含まれている。そこで、URLからblosxom.cgiというファイル名を隠して、こ

のURLを短くするテクニックを紹介しよう。

① サーバーで.htaccessファイルを利用して、かつmod_rewriteというApacheモジュール(6)が利用できることを確認する。これらの環境がないとこのテクニックは利用できない。

② Blosxomを設置したディレクトリーに.htaccessという名前のファイルを作って、次のような内容を記述する。

```
DirectoryIndex blosxom.cgi
RewriteEngine on
RewriteCond
```

```
%{REQUEST_FILENAME} !-f
RewriteCond
%{REQUEST_FILENAME} !-d
RewriteRule ^(.*)$ blosxom.cgi/$1
[L,QSA]
```

③ blosxom.cgiを開いて、\$urlに、blosxom.cgiのファイル名を除いたURLを指定する。最後にスラッシュを付けてはいけない。

```
$url = "http://example.com/blosxom";
```

④ 次のようなURLで閲覧できるようになる。

http://サーバー名/blosxom/foob/bar.html

2

BlosxomとWikiを組み合わせて使う

最近人気のツールにWikiがある。Wikiとは、複雑なHTMLを書かなくても、「*」や「-」などの記号を使った簡単なルールに従って、見出し、箇条書き、太字などを指定した文章を書いていくだけで、Wikiを通して表示すると指定どおりに整形されたHTMLとして表示してくれるものだ。本来は複数の人がコラボレーションするのがWikiの魅力だが、「Wiki記法」とも呼ばれるその単純な記述法も人気だ。

標準のBlosxomでは普通にHTMLを書くしかないの、Wikiのような簡単なルールでエントリーを書くことができれば、エントリーを書く手間が格段に減るだろう。

こういったことはだれもが考えることのように、Wikiのマークアップの仕組みを実装するプラグインはいくつか存在する。公式サイトにあるkwikiプラグインもその1つだが、オススメしたいのは、国産のWikiであるYukiWikiをベースにした次の2つのプラグインだ。

・yukiwikiプラグイン

URL http://park14.wakwak.com/~aoshimak/cgi-bin/blog/blosxom.cgi/blosxom/yukiwiki_plugin.tdiary

・yukiwikixプラグイン

URL <http://www.hoso.net/~yu-ji/blog/blosxom/yukiwiki.html>

これらのプラグインをダウンロードして、プラグインディレクトリーに置けば、Wikiのルールでエントリーを書くことができるようになる。

yukiwikiプラグインとyukiwikixプラグインは、自分のサイトでYukiWikiを使っているならば、YukiWikiのキーワードデータベースと連携することもできる。エントリー内にYukiWikiのキーワードが出てきたら、対応したYukiWikiのページに飛びリンクを張ってくれるのだ。さらに他のWikiと連携するInterWikiNameも利用できると、InterWikiNameと同様にパラメーターにキーワードを指定して

呼び出す仕組みのGoogleや關心空間のページなどにも手軽にリンクを張ることができる。

ブログツールにはトラックバックなどの、手軽に外とつながる仕組みがあるが、どうしてもそれは意外さに欠けるところがあると思う。かといって無作為にリンクを張っても、ノイズになるだけの話なので、こういったWikiとの連携などで、手間をかけずに世界の広がりを実現できるのは非常に興味深い。



図8 YukiWikiを使っている人ならば、YukiWikiプラグインとBlosxomを組み合わせたサイトがいかに便利かがわかるだろう。

6 要求されたURLを正規表現ベースで記述されたルールに従って適宜書き換えることができるApacheモジュール。



トラックバックなどの機能も充実

これはただの日記ツールではない

tDiary 1.5+BlogKit

は

和製ブログツール

独自進化で他のツールとはひと味違う

text: ただただし <http://www.tdiary.org/>

▶ ブログにもバッチリ使える日記ツールtDiary + BlogKit

tDiary(1)は、筆者が主となって開発している、ウェブ日記を公開するためのフリーソフトウェアだ。「えっ、これってブログツールの特集じゃないの?」と思われるかも知れないので、最初に少し説明しておく必要があるだろう。

ウェブ日記とウェブログは、頻繁に更新されて最新の記事から時系列に並ぶという共通の特徴があり、そのスタイルにはほとんど違いはないと言っていい。「ウェブログ」という言葉が輸入されるはるか前から、日本にはブログツールとよく似た目的で作られたウェブ日記ツールが数多くあり、たくさんのユーザーがコミュニケーション目的に使っていた(2)。日本ではウェブログは決して目新しい概念ではないのだ。

tDiaryは、国産ウェブ日記ツールの中でも比較的新しい仲間である。

ただし、一般的なウェブ日記ツールとブログツールには微妙な違いがある。ウェブ日記が記事を日付単位で管理して複数の話題を同じ日に書くのに対して、ブログツールでは記事単位でページを管理するのが一般的だ。ウェブ日記には個々の話題をポイントするための「段落アンカー」という仕組みがあるが、これがブログツールの「パーマリンク(永続リンク)に相当している。このささいな違いは、記事の書き方にけっこう大きな違いをもたらすようだ。tDiaryはウェブ日記ツール出身なので、日付単位+段落アンカーによる記事管理をしているが、BlogKitというプラグインを使えば、ブログツール的な記事単位の管理が可能になる。tDiaryとBlogKitを組み合わせることで、他のブログツールと



図1 tDiaryだけで作る日記サイトも立派なブログだが、BlogKitプラグインを使えばさらに「ブログっぽく」なる。トラッキングバック、RSS、カテゴリ、パーマリンク、「最近のコメント」など、まさに「ブログっぽい」サイトにできる。

様の使い方ができるようになるのだ。

▶ 他のブログツールにはない機能と多様なプラグインやテーマが魅力

tDiaryは、GPLのライセンスで配布されるオープンソースのフリーソフトウェアで、



vs tDiary + BlogKitはMovable Typeとココが違う

- ・ページが動的生成である
MTが各ページを静的なHTMLファイルとして出力するのに対して、tDiaryはすべて動的に出力する。tDiaryの方が負荷が高いが、MTのように設定を変えるたびにリビルドする必要はない。一長一短があるだろう。
- ・互換性のあるデザイン素材が豊富
テンプレートまでいじれるMTの場合、非常に柔軟にレイアウトを変更できる一方で、他のMTユーザーが作ったスタイルシートを流用し

- づらいことがある。tDiaryはテンプレートを固定して柔軟性を少し犠牲にした代わりに、200種類を超えるテーマがすぐに使える。
- ・日本発なので日本語の処理は安心
tDiaryは最初から日本語と英語に対応しており、他の言語に対応させる場合にもフレームワークが決まっているので簡単に対応できる。もちろん開発者が日本人なので、バージョンアップするたびに日本語化の作業が必要になったりしない。

- ・携帯電話との親和性が高い
tDiaryは動的生成を生かして、アクセスしてきた端末によって出力するHTMLを変えている。携帯端末からのアクセスの場合は余分な情報を省いたCompactHTMLを返すことで、パケット代の節約に貢献する。同じことをMTで実現しようとしたら結構な手間がかかるはずだ。

1 tDiary公式サイト <http://www.tdiary.org/>
2 日記を認めるシステムたち <http://kohgushi.fastwave.gr.jp/aboutdiary/>



tDiary + BlogKit を動かすにはコレが必要

実行にはRuby 1.6.3以降が必要で、最新のRuby 1.8.1にも対応している。最近ではRubyの使えるレンタルサーバーはずいぶん増えている。標準で使えない場合でも、運営会社に依頼すれば、すんなり入れてくれることも

多いようだ。あとはウェブサーバーさえ動いていれば、基本的にほかには何もいらぬ。データベース機能も不要だ。ただし、いくつかのプラグインは、Rubyの拡張ライブラリーをインストールしなければ使え

ないことがある(たとえばUTF-8のトラックバックを受信する場合にはuconvライブラリーが必要だ)。その場合には、やはりレンタルサーバー会社にインストールを依頼することになるだろう。

Movable Typeとほぼ同じ長さの歴史を持つ。ウェブ日記ツールにコミュニケーションを強化する機能を付け加えていった結果、tDiaryは一般的なブログツールが持つ機能のほとんど+ を備えるようになった。

特徴的なのは「本日のリンク元」機能だ。ウェブ日記では従来、リンクされたことを知るために、ウェブサーバーのログの「どのページのリンクをたどって来たか」の情報を解析していた。tDiaryではこれを自動的に整理して表示してくれる(図2)。トラックバックのような複雑な仕組みなしに、言及されたことがわかる便利な機能だ。

「ツッコミ」は、いわゆるコメントの機能だ。ちょっとした気の利いた短文を入れてほしいという意味を込めて「ツッコミ」と呼んでいるが、長文でも問題ない。

tDiaryを語るうえで特に外せないのが多彩な「テーマ」だ。tDiaryサイトのデザインを変える場合、テンプレートは変えずに、決められた構造のページに対してスタ

イルシートだけを変更する。このため、すべてのtDiaryサイトで同じスタイルシートが使える。tDiaryではこれを「テーマ」と呼んでいて、その数は公開されているものだけで200個を超えている(3)。

多数の「プラグイン」も魅力だ。記事の入力を簡単にするためのもの、標準機能を拡張するものなど、数十種類のプラグインが公開されている。最近のブログには欠かせないトラックバックや画像ファイルの貼り付けもプラグインで実現している。また、プラグインではないが、記事の記述形式も差し替えられる。tDiary標準の記述形式はHTMLのサブセットだが、WikiやRDなどの独自の記述法を使うツールと同じ書き方ができる「スタイル」が提供されていて、記事単位で切り替えられる。また、データの保存形式まで差し替えが可能で、やりたければバックエンドをデータベースサーバーにすることも可能だ。

ウェブ日記やウェブログに必要な基本機能は標準でしっかり備えていて、さらにプラグインやスタイルなど、拡張のための自由度も大きい、tDiaryはそんなツールだ。

▶ tDiary はこんな人にピッタリ

・英語が嫌いな人

tDiaryは開発者のほとんどが日本人でユーザー数も多いので、日本語の情報が

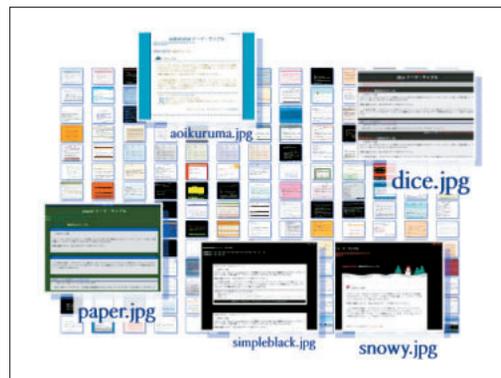


図3 すぐに使えるテーマが200種類以上あるのは、とにかく「他人と同じ」がイヤな人にはありがたい。テーマ一覧のFlashでテーマを選んでみよう。

URL <http://tdiary2.tdiary.net/theme/zphoto.swf>

充実していてユーザー間の情報交換も盛んだ(4)。当然ながら日本語の扱いで問題は出ないので、英語や日本語化に関するトラブルを避けたい人には最適だろう。多くの機能がプラグインで提供されているが、その情報もちろん日本語だ。

・気軽にデザインを変えたい人

インストールしたら、既存の200種類のテーマから選んで簡単にデザインを変えられる(図3)。公式テーマ集に含まれるテーマは自由に改造していいので、あとからじっくりデザインを調整するのも可能だ。

・携帯電話から使いたい人

tDiaryで作られたサイトは、見るだけでなく、ツッコミや更新作業も携帯電話から可能だ(環境によっては更新ができないこともあるが、メールによる更新も可能だ)。

本日のリンク元	
87	http://www@plala.or.jp/dansan01/
33	Asumi日記Antenna/
11	http://diary.thegamegallery.net/asura/
8	google 検索(EQ)
7	http://www.ceres.dtime.jp/~tatsu/link.html
3	http://diary.thegamegallery.net/asura/?date=1201
2	google 検索(RNG EQ)
2	google 検索(Ask Quest)
2	msn 検索(magelo)
2	goo 検索(EQ RZ)
1	http://www.google.de/search?hl=de&ie=UTF-8&oe=UTF-...
1	google 検索(Vulak Aerr)
1	google 検索(warcraft チャット 方法)
1	google 検索(Pov EQ map)
1	google 検索(EQ PoH MAP)
1	google 検索(EQ 日記)
1	http://www.google.ca/search?q=map eq plane of eart...

図2 「本日のリンク元」ではリンク元ごとにアクセス数がわかり、検索サイトでどんなキーワードで検索されたのかがわかるなど、単なるアクセスログよりもおもしろく、簡単にリンクアクセス状況がわかる。

3 tDiaryのテーマはtDiary以外のツールやサービスにも使われていぬ(はてなダイアリーが有名)。ほかにもいくつかのWikiエンジンやブログツールがtDiaryと同じ構造のHTMLを生成できる。tDiaryテーマギャラリー URL <http://www.tdiary.org/20021001.html>

4 tDiary-usersコミュニティー URL <http://tdiary-users.sourceforge.jp/>



慣れていない人には少し難しいかも? tDiary 1.5 + BlogKitのインストール

▶ 最新版のtDiary 1.5を 入手しよう

今回使うtDiaryは、開発版の最新バージョン1.5.6だ。開発中のバージョンだが非常に安定しているし、BlogKitは1.5系にしか存在していないのでこれを使う。

tDiaryのダウンロードは、公式サイト

次のページから入手する。

<http://www.tdiary.org/20021112.html>

必要なファイルは次の2つだ(5)。

- ・tDiaryの本体(フルパッケージ)
- 「ちょっと妖しい開発版」の「tDiary 1.5.6

(フルセット)」を選んで、テーマ集やプラグイン集がすべて含まれたフルパッケージをダウンロードする。

・ BlogKit

ページの下の方にある「Blogkit」からダウンロードする。必ず本体と同じバージョンのものを使う必要がある。

▶ 意外と簡単に終わる tDiary本体のインストール

ここでは、図4のような状態でサーバーにtDiaryをインストールすると想定する。異なった環境に合わせて変更する必要がある可能性のある部分は赤色で示す。

まず、ダウンロードした本体のファイルtdiary-full-1.5.6.tar.gzを解凍する。tDiaryのファイルが展開されるので、次の3つの作業をする。

・ tdiary.confを編集する

tDiaryの動作を決める設定ファイルだ。解凍した中にあるtdiary.conf.sampleというファイルの名前をtdiary.confに変えてテキストエディターで開き、14行目にある次の行を探す。

```
@data_path = '/home/foo/diary'
```

この'/home/foo/diary'を、データファイ

ルの置き場所に書き換える。

```
@data_path = './data'
```

ほかの項目はそのままにしておく。

・ .htpasswdを作る

管理ユーザーとパスワードの設定だ。tDiaryはウェブサーバーの認証機能をそのまま使う。まず「.htpasswd」という名前のファイルを作る。.htpasswdファイルには、専用のツールにユーザー名とパスワードを入力して作った専用のデータを書き込む。レンタルサーバーによって異なるが、.htpasswdのデータを作る仕組みが用意されているはずなので、それを利用することになるだろう(図5)。

・ .htaccessを修正する

CGIの動作設定や、アクセス制限を有効にする設定を書いたウェブサーバー用のファイルだ。サンプルのdot.htaccessを図6のように書き換える。

ウィンドウズでは「.」で始まるファイルを作るのが難しいので、「htpasswd」という名前でファイルを作り、サーバーにアップロードしてからファイル名を変えるのがいいだろう。



図5 レンタルサーバー「ロリポップ!」の管理ページにある「アクセス制限」ツールでユーザー名「hoge」、パスワード「hohogehoge!!」のhtpasswdを生成しているところ。生成された「hoge:c/fIQ59YkNJVs」という行を、htpasswdファイルに書き込んで保存する(ユーザー名とパスワードによって書き込む文字は変わる)

図6 .htaccessファイルの設定

```
<Files update.rb>
AuthName tDiary
AuthType Basic
AuthUserFile /ホームディレクトリ/.htpasswd 1
Require user hoge 2
</Files>
```

1 .htpasswdファイルを置くサーバー上の場所をフルパスで指定する。レンタルサーバーによっては、FTPでアクセスするときに見えるパスとは異なる「/home/sites/lollipop.jp/users/lollipop.jp-aa999/web/.htpasswd」などの長い絶対パスを指定しなければいけない場合もある。

2 .htpasswdに設定した、更新可能なユーザーの名前を指定する。

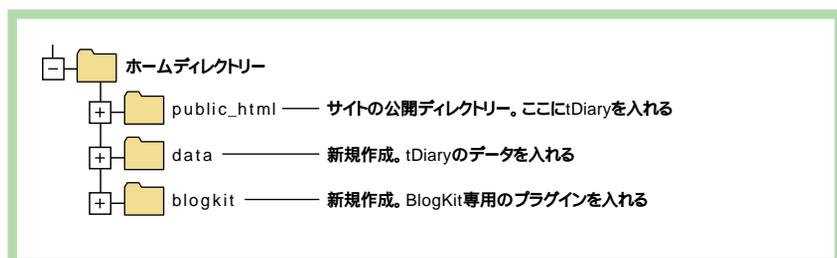


図4 tDiary + BlogKitのインストールイメージ。ホームディレクトリの具体的なパス名やpublic_htmlの有無は環境によって異なるので、わからない場合は管理者に確認すること。

5 tar.gz形式の圧縮ファイルを展開できるツールを用意しよう。また、tDiaryの設定ファイルは文字コードがEUCなので、秀丸などの、EUCを編集できるテキストエディターも必要になる。

では、準備ができたのでFTPでサーバーにアップロードしよう。

- .htpasswdはホームディレクトリーに、.htpasswd以外のファイルをすべてホームディレクトリーの下にpublic_htmlの中に転送する。
- 必要ならば、.htpasswdと.htaccessのファイル名を正しいものに変更する。
- index.rbとupdate.rbのパーミッションを755に変更する(図7)。
- サーバーのホームディレクトリーの下にdataディレクトリーを作る(6)。

名前	日付	サイズ	属性
doc	2004/02/09 0:43	<DIR>	rwXr-xr-x
erb	2004/02/09 0:43	<DIR>	rwXr-xr-x
misc	2004/02/09 0:44	<DIR>	rwXr-xr-x
plugin	2004/02/09 0:44	<DIR>	rwXr-xr-x
skel	2004/02/09 0:44	<DIR>	rwXr-xr-x
tdiary	2004/02/13 20:51	<DIR>	rwXr-xr-x
theme	2004/02/13 20:42	<DIR>	rwXr-xr-x
.htaccess	2004/02/09 1:06	740	rw
ChangeLog	2004/02/09 0:43	45,472	rw
index.rb	2004/02/09 0:43	3,239	rw
README	2004/02/09 0:43	287	rw
tdiary.conf	2004/02/09 0:55	12,160	rw
tdiary.rb	2004/02/09 0:43	38,918	rw
update.rb	2004/02/09 0:43	2,673	rw

図7 インストール後のサーバー上のpublic_htmlの状態。これとは別にdataディレクトリー(中は空でいい)を作っておく。

これでインストールは完了だ。tDiaryをインストールした場所にブラウザでアクセスして図8のように表示されればOKだ。

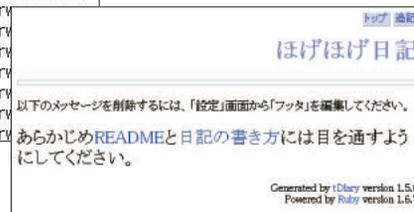


図8 何も記事のないまっさらの日記の完成だ。

▶ さらにプロログらしくするための BlogKit プラグインのインストール

次に、BlogKitプラグインをインストールしよう。まず、ダウンロードしたtdiary-blogkit-1.5.6.tar.gzを解凍する。解凍した中のpluginディレクトリーにあるファイルをすべて、サーバーのホームディレクトリーの下にblogkitディレクトリーを作ってFTPでアップロードする。

また、BlogKitのtdiaryディレクトリーにあるblog_style.rbを、サーバーのホームディレクトリーの下にpublic_htmlにあるtdiaryディレクトリーに転送する。

そして、tdiary.confをBlogKitのものに差し替える。BlogKitに付属しているtdiary.conf.sample_jaの名前をtdiary.confに変えてエディターで開き、「@data_path」

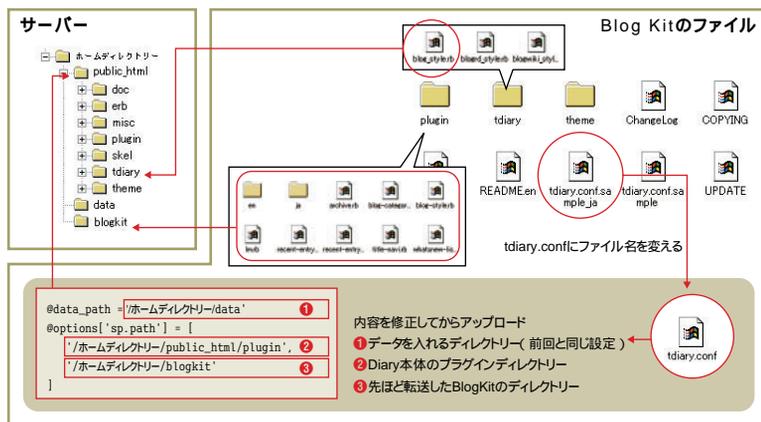


図9 BlogKitをインストールしたら完成だ。

の部分を先ほどと同じように書き換える。さらに、その下にBlogKit専用のプラグインを読み込めるようにするための設定を追加する。修正が終わったtdiary.confをFTPでホ

ームディレクトリーの下にpublic_htmlに転送して、先ほどのtdiary.confを上書きする。これでBlogKitのインストールは終わりだ(図9)。

▶ 少しだけ初期設定すれば tDiary + BlogKitプロログの完成だ

先ほどのURLをもう一度開いてみよう。環境によって、殺風景な画面に変わっているかもしれないが、気にせず画面の「追記」をクリックする。ユーザー名とパスワードを聞かれるので、設定したとおりに入力する。続いて現れるページでエントリーを記入

できるのだが、まず記事を書く前に、初期設定を済ませよう。ページ最上部のメニューから「設定」を選ぶ。

まずは殺風景な画面をなんとかしたい。設定メニューから「テーマ」をクリックして、適当なテーマを選ぶ(サイドバーに対応していない一部のテーマではうまくいかない場合がある)。ここではとりあえず「Default」を選んで「OK」をクリックしておこう(図10)。



図10 まずは設定画面で「テーマ」を選び、表示デザインを変えておこう。「OK」をクリックして何か別のメニューを選べば新しいテーマが表示される。

6 dataディレクトリーは、ウェブサーバーの権限で書き込めるようになっている必要がある。最近のレンタルサーバーでは単にディレクトリーを作るだけでいいが、うまく動かない場合はdataディレクトリーのパーミッションを666にする。

さらに、メニューの最後にある「プラグイン選択」を選び、ウェブログらしさを演出するプラグインとして、次のものにチェックをつけて「OK」をクリックし、インストールしておこう。「プラグイン選択」画面では、個々のプラグインファイル名はリンクになっている、インターネット上にあるヘルプページを見ることができるようになっている。

- archive.rb(過去のエントリーの書庫一覧)
- blog-category.rb(カテゴリー機能)
- blog-style.rb(ブログ風スタイル)
- lm.rb(エントリーの更新時刻を挿入)
- recent_entry2.rb(最近追加されたエントリー)
- whatsnew-list.rb(最近更新されたエントリー)

これ以外にもさまざまなプラグインがあるので、いろいろと試してみるといいだろう。ただし、同時には使えないプラグインもあるので、一度にたくさん選択しすぎないように気をつけよう。

あとは、メニューの「基本」(図11)と「ヘッダ・フッタ」(図12)をクリックして、自分の名前や、ウェブログの名前などを設定しておこう。

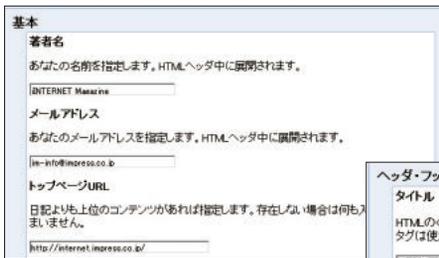
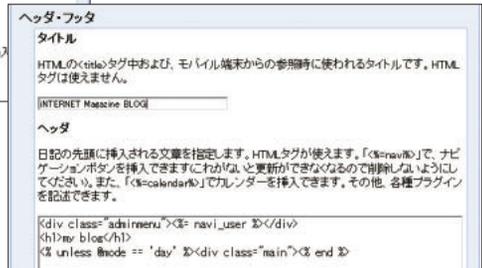


図12 少なくともブログのタイトルだけは入力しておこう。「ヘッダ」・「フッタ」のHTMLを編集すれば、すべてのページの表示が変わる。Google アドセンスなどのHTMLコードはここに入力するといいたい。

図11 「基本」設定では、自分の名前とメールアドレスを設定する。「トップページURL」にはサイト全体のトップページのURLを入力しておこう。



これで初期設定は完了だ。いよいよエントリーを追加する。ページ最上部のメニューから「更新」をクリックすると、図13のようなページになる。BlogKitではウェブ日記における日付を記事番号として扱うので、日付を入力する欄は無視していい。記事を新しく追加するたびに新しい記事番号が生成されるようになっているし、特定のエントリーを修正したいときにはそのエントリーのページから「編集」を選べばいい。

その他の入力欄は極めてシンプルで、基本的にはタイトルと本文しかない。本文の記述形式については「書き方」というリンクがあるので、その先を参照してほしい。現在はBlogスタイルという記述形式が選

ばれているが、別に配布されているスタイルファイルをインストールすることでBlogWikiスタイルなどの、HTMLタグを使わずに書ける記法を選べるようになる。



図13 標準では日付、タイトル、本文だけのシンプルな入力画面だ。記事をカテゴリー分けする方法は設定画面の「blogkitカテゴリー」を参照してほしい。

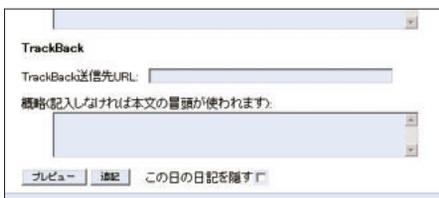
▶ やっぱり欲しいトラックバックプラグインで実現しよう

トラックバックはブログには欠かせないものの1つだろう。tDiaryのトラックバック機能はプラグインで提供されている。

ダウンロードしたtDiaryのファイルの中のmisc/plugin/trackbackにあるtb.rb(トラックバックを受信するためプログラム)をindex.rbなどと同じディレクトリにアップロードしてパーミッションを755にする。また、misc/pluginにあるファイルとディレクトリをすべてサーバーのpluginディレ

クトリに転送しておこう。

あとはtDiaryの設定画面で「プラグイン選択」を選び、tb-send.rb(トラックバック送信用)とtb-show.rb(トラックバック関連情報の表示用)にチェックを入れて「OK」を押せば、もうトラックバックが使えるよう



になっている(7)。

更新画面を表示してみるとトラックバック用の入力欄が増えているはずだ(左図)。また、個々のページにもトラックバックに関する情報が追加される(右図)。



7 tDiaryは標準ではUTF-8を解釈できないため、UTF-8で送られたトラックバックは文字化けしてしまう。UTF-8に対応するにはuconvライブラリーのインストールが必要なので、ぜひインストールするかもしくはレンタル業者にインストールを依頼することをすすめる。



とっておきの活用テクニック tDiary + BlogKitの蔵出しTIP

1 静的HTMLファイル風のURLに見せかける

tDiary + BlogKitで生成される各エントリーのURLは、次のような形式だ。

http://サーバー名/?date=20040501

「date=20040501」は元のtDiaryでは日付として使われていた部分を、BlogKitでは記事IDとして流用している。これはこれでかまわないのだが、このような「いかにもCGI」というURLだと、検索エンジンに捨ててもらいにくいと言われる。いま流行りのSEO(検索エンジン最適化)のためにも、URLを次のような形式にしてみよう。

http://サーバー名/20040501.html

まず、エントリーのリストやナビゲーションボタンが指す各記事のURLを「YYYYMMDD.html」形式に変更する必要がある。これは付属のhtml_anchor.rbプラグインを使うだけでOKだ。設定画面の「プラグイン選択」からこれを有効にしよう。

しかし、tDiaryがやってくれるのはここまで。実際にこのURLにアクセスしてもファイルが見つからなくてエラーになってしまう。ここから先はウェブサーバーにやってもらおう。「YYYYMMDD.html」へのアクセスを「?date=YYYYMMDD」に変換し



てくれる、Apacheのmod_rewriteというモジュールがあるのだ。使い方は、tDiaryの.htaccessに下記の記述を追加するだけだ。ただし、mod_rewriteモジュールが使えないサーバーもあるので、管理者に聞いてみよう。

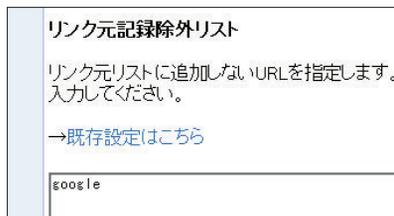
```
RewriteEngine on
RewriteRule ^/([0-9]+)%.html$ /ホームディレクトリー/public_html/index.rb?date=$1
```

2 tDiaryの動作を高速にする設定のテクニック

tDiaryはアクセスがあるごとにページを生成するため、アクセスの多いサイトや、たくさんの人と共用しているレンタルサーバーでは、動作が遅くなることもある。いろいろな高速化のノウハウがあるが、そのうちのいくつかを紹介しよう。

・リンク元を制限する

「本日のリンク元」はtDiaryの特徴的な機能だが、アクセスが多いとリンク元の処



理のせいで重くなる傾向がある。

設定画面の「リンク元」で「リンク元の表示」を「非表示」にして、ページではリンク元を非表示にしよう。読者にはリンク元が見えなくなるが、動作は軽くなる(記事の編集画面では表示される)。

リンク元を記録する数を減らせばもっと軽くなる。検索エンジン経由のアクセスで使われたキーワードがわかるのは楽しいのだが、これは重くなる元凶でもある。「リンク元記録除外リスト」に検索エンジンのURLを(一部でも)記述すれば、その検索エンジンからのリンク元の記録を止められる。たとえばGoogleからのリンク元を記録しないようにするなら左下図のように記述するだけでいい。

さらに、リンク元の表示も記録もいっさいあきらめると、さらなる軽量化ができる。この場合、「リンク元記録除外リスト」には「.*」と書けばいい。ただし、これではどこ

からリンクされたのかさっぱりわからなくなるので、せめてトラックバックは有効にした方がいいだろう。

・トップページのエントリー数を減らす

最もアクセスが多いトップページに表示するエントリーの数が多いと、やはり重くなる。あまり欲張らずに、ほどほどにしよう。設定画面の「表示一般」にある「最新表示の最大日数」というのがその数値だ。BlogKitではエントリー数と同じである。各エントリーの長さにもよるが、この数値は5~10くらいが妥当だろう。

ほかにも、ツッコミの表示数も大きすぎると重くなる要因になる。これも設定画面の「ツッコミ」で3~5件くらいに設定しておくのがいいだろう。ツッコミの全文は各エントリーのページで読めるので、トップページではどんな意見が何件あるのかわかる程度にしておくのがいい。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp